

注3

大学番号：私238

[平成26年度設置]

計画の区分：学部設置

注1

認可

奈良学園大学 保健医療学部 看護学科

注2

【認可】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人 奈良学園

平成29年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名 事務局

職名・氏名 局長 仁後 公幸

電話番号 0745-73-7800

（夜間） 0745-73-7820

F A X 0745-72-0822

e-mail jimu@naragakuen-u.jp

（注）1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には設置時の旧名称を記載し、その下欄に（ ）書きにて、現在の名称を記載してください。

例） 〇〇大学 △△学部 □□学科

（◇◇学部（平成◇◇年度より学部名称変更））

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例）

・大学新設の場合：「〇〇大学」

・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」

・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」

・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」

・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」

・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科（通信教育課程）」

3 大学番号の欄については、平成29年3月31日付事務連絡「大学等の設置に係る設置計画履行状況報告書等の提出について（依頼）」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目次

保健医療学部

＜看護学科＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	3
2. 授業科目の概要	7
3. 施設・設備の整備状況、経費	27
4. 既設大学等の状況	29
5. 教員組織の状況	31
6. 留意事項等に対する履行状況等	53
7. その他全般的事項	59

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設 置 者

学校法人奈良学園

(2) 大 学 名

奈良学園大学 (平成26年度奈良産業大学から名称変更)

(3) 大学の位置

〒631-8524
奈良県奈良市中登美ヶ丘三丁目15番1号
(〒636-8503 奈良県生駒郡三郷町立野北3丁目12-1)

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を () 書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職 名	設 置 時	変 更 状 況	備 考
理 事 長	(ニシカワ チカシ) 西 川 彭 (平成19年4月)		
学 長	(カジタ エイチ) 梶 田 一 (平成26年4月)	(ツジ キイチロウ) 辻 毅一郎 (平成29年4月)	一身上の都合により、平成29年3月に梶田一学長が退職したため、平成29年4月1日から変更 (29)
学 部 長	(モリモト トモコ) 守 本 とも子 (平成26年4月)		
学科長等			

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を () 書きで記入してください。

(例) 平成27年度に報告済の内容 → (27)

平成29年度に報告する内容 → (29)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載 (昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正) するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称，定員，入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部学科または研究科の専攻等，定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
- ・ なお，課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は，法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」）でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。
- ・ 様式は，平成26年度開設の4年制の学科の場合（平成29年度までの4年間）ですが，開設年度・修業年限に合わせて作成してください。（修業年限が3年以下の場合には欄を削除し，5年以上の場合には，欄を設けてください。）

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の 名称（学位）	学位又は学科 の分野	設 置 時 の 計 画				備 考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
保健医療学部 看護学科 学士（看護学）	保健衛生学関係 （看護学関係）	4年	80人	— 年次人	320人	

- (注) ・ 定員を変更した場合は，「備考」に変更前の人数，変更年月及び報告年度を（ ）書きで記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は，「備考」にその旨記載してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には，「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要（別記様式第2号（その2の1））」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

対象年度 区 分	平成 2 6 年度		平成 2 7 年度		平成 2 8 年度		平成 2 9 年度		平均入学定員 超 過 率	備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
A 入学定員	人 80 (ー) [ー]	人	人 80 (ー) [ー]	人	人 80 (ー) [ー]	人	人 80 (ー) [ー]	人	1.08倍	
志願者数	912 (ー) [ー]	ー (ー) [ー]	857 (ー) [ー]	ー (ー) [ー]	908 (ー) [ー]	ー (ー) [ー]	1114 (ー) [ー]	ー (ー) [ー]		
受験者数	859 (ー) [ー]	ー (ー) [ー]	817 (ー) [ー]	ー (ー) [ー]	880 (ー) [ー]	ー (ー) [ー]	1060 (ー) [ー]	ー (ー) [ー]		
合格者数	127 (ー) [ー]	ー (ー) [ー]	144 (ー) [ー]	ー (ー) [ー]	124 (ー) [ー]	ー (ー) [ー]	119 (ー) [ー]	ー (ー) [ー]		
B 入学者数	88 (ー) [ー]	ー (ー) [ー]	91 (ー) [ー]	ー (ー) [ー]	81 (ー) [ー]	ー (ー) [ー]	88 (ー) [ー]	ー (ー) [ー]		
入学定員超過率 B／A	1.10		1.13		1.01		1.10			

- (注) ・ 数字は，平成29年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ （ ）内には，編入学の状況について**外数**で記入してください。なお，編入学を複数年次で行っている場合には，（（ ）書きとするなどし，その旨を「備考」に付記してください。該当がない年には「—」を記入してください。
- ・ []内には，留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
- ・ 留学生については，「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により，我が国の大学（大学院を含む。），短期大学，高等専門学校，専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など，定員内に含めていない学生については記入しないでください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は，春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は，その他の学期欄は「—」を記入してください。また，その他の学期に入学定員を設けている場合は，備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については，**各年度の春季入学とその他を合計した入学定員，入学者数で算出**してください。なお，計算の際は**小数点以下第3位を切り捨て，小数点以下第2位まで記入**してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には，開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお，計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成 2 6 年度		平成 2 7 年度		平成 2 8 年度		平成 2 9 年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1 年次	88 [ー] (ー)	ー [ー] (ー)	91 [ー] (ー)	ー [ー] (ー)	81 [ー] (ー)	ー [ー] (ー)	88 [ー] (ー)	ー [ー] (ー)	
2 年次			88 [ー] (ー)	ー [ー] (ー)	91 [ー] (ー)	ー [ー] (ー)	80 [ー] (ー)	ー [ー] (ー)	
3 年次					87 [ー] (ー)	ー [ー] (ー)	87 [ー] (ー)	ー [ー] (ー)	
4 年次							86 [ー] (ー)	ー [ー] (ー)	
計							341 [ー] (ー)		
	88 [ー] (ー)		179 [ー] (ー)		259 [ー] (ー)		341 [ー] (ー)		

- (注) ・ 数字は、平成 2 9 年 5 月 1 日現在の数字を記入してください。
- ・ [] 内には、留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「ー」を記入してください。
 - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「ー」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。
 - ・ () 内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「ー」を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	入学者数(b)	退学者数(a)	退学者数(内訳)			主な退学理由	入学者数に 対する退学者数 の割合 (a/b)
			退学した年度	退学者数	退学者数の うち留学生数		
平成26年度 入学者	88 人	2 人	平成26年度	0 人	— 人	該当なし	2.27 %
			平成27年度	0 1 人	0 人	就学意欲の低下(1人)	
			平成28年度	1 人	0 人	就学意欲の低下(1人)	
			平成29年度	0 人	— 人	該当なし	
平成27年度 入学者	91 人	4 人	平成27年度	0 人	— 人	該当なし	4.39 %
			平成28年度	4 人	0 人	就学意欲の低下(3人) 除籍(1人)	
			平成29年度	0 人	— 人	該当なし	
平成28年度 入学者	81 人	1 人	平成28年度	1 人	0 人	就学意欲の低下(1人)	1.23 %
			平成29年度	0 人	— 人	該当なし	
平成29年度 入学者	88 人	0 人	平成29年度	0 人	— 人	該当なし	0.00 %
合 計	348 人	7 人					2.01 %

(注)・ 数字は、平成29年5月1日現在の数字を記入してください。

- ・ 各年度の入学者数については、該当年度当初に入学した人数を記入してください。(途中で退学者がいた場合でも、その退学者数を減らす必要はありません。)
- ・ 各年度の退学者数については、退学年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)」により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記入してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
- ・ 「入学者数に対する退学者数の割合」は、【当該対象年度の入学者のうち、平成29年5月1日現在までに退学した学生数の合計】を、【当該対象年度の入学者数】で除した割合(%)を記入してください。その際、小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位までを記入してください。
- ・ 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

2 授業科目の概要

<保健医療学部 看護学科>

(1) 授業科目表

科目 区分		授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					備 考	
				必 修	選 択	自 由	教 授	准教授	講 師	助 教	助 手		
共通教育科目	基礎教養	英語Ⅰ	1前	1								兼1	・履修希望者がいなかったためH26後期末開講(27) ・通常開講(28) ・履修希望者がいなかったためH28後期末開講(29) 留学生対象 ・留学生の入学者がいないため未開講(26) ・留学生の入学者がいないため未開講(27) ・留学生の入学者がいないため未開講(28) ・留学生の入学者がいないため未開講(29) 留学生対象 ・留学生の入学者がいないため未開講(26) ・留学生の入学者がいないため未開講(27) ・留学生の入学者がいないため未開講(28) ・留学生の入学者がいないため未開講(29) 留学生対象 ・留学生の入学者がいないため未開講(27) ・留学生の入学者がいないため未開講(28) ・留学生の入学者がいないため未開講(29) 留学生対象 ・留学生の入学者がいないため未開講(27) ・留学生の入学者がいないため未開講(28) ・留学生の入学者がいないため未開講(29) ・履修希望者がいなかったためH26後期末開講(27) ・履修希望者がいなかったためH26後期末開講(28) ・H28通常開講 (29) ・吉岡隆之教授が退職し、兼任講師として就任 (29) ・履修希望者がいなかったためH28後期末開講(29) ・吉岡隆之教授が退職し、兼任講師として就任 (29) ・兼任前担当者 (井上真理子) が退職し、同氏が兼任講師として就任。(29) ・履修希望者がいなかったため未開講(26) ・履修希望者がいなかったため未開講(27) ・通常開講(28) ・西川弘展兼任講師が退職し兼任准教授の武谷嘉之准教授が就任。(29) ・履修希望者がいなかったためH28後期末開講(29)
		英語Ⅱ	1後	1								兼1	
		英会話Ⅰ	1前	1								兼1	
		英会話Ⅱ	1後	1								兼1	
		中国語基礎Ⅰ	1・2・3・4前		1							兼1	
		中国語基礎Ⅱ	1・2・3・4後 未開講 1・2・3・4後 未開講 1・2・3・4後		1							兼1	
		中国語会話	1・2・3・4前		1							兼1	
		日本語Ⅰ	未開講 1前		1							兼1	
		日本語Ⅱ	未開講 1後		1							兼1	
		日本語表現Ⅰ	未開講 2前		1							兼1	
		日本語表現Ⅱ	未開講 2前		1							兼1	
		文学	1・2・3・4後 未開講 1・2・3・4後		2							兼1	
		哲学	1・2・3・4前		2							兼1	
		倫理学	1・2・3・4前		2							兼1	
		心理学	1・2・3・4前		2							兼1	
		行動科学の基礎	1・2・3・4後		2			1				兼1	
		文化人類学	1・2・3・4後		2							兼1	
		感性・イメージ表現	1・2・3・4後		2			1				兼2 兼1	
		音楽の世界	1・2・3・4後		2							兼1	
		社会学	1・2・3・4後		2							兼1	
		社会科学の基礎	1・2・3・4前 未開講 1・2・3・4前		2							兼1	
		日本国憲法	1・2・3・4前		2							兼1	
		外国史	1・2・3・4後		2							兼1	

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					備 考		
			必 修	選 択	自 由	教 授	准教授	講 師	助 教	助 手			
共通教育科目	基礎教養	地理学	1・2・3・4後 未開講 1・2・3・4後		2							兼1	・履修希望者がいなかったためH26後期末開講(27) ・通常開講(28) ・履修希望者がいなかったため未開講(26) ・通常開講(27) ・履修希望者がいなかったため未開講(26) ・通常開講(27) ・履修希望者がいなかったため未開講(29) ・阪元勇輝兼任教授が退職し兼任講師として就任(29) ・吉岡隆之教授が退職。兼任講師（岡部修一）が就任（29）
		数学の世界	1・2・3・4前 未開講 1・2・3・4前		2							兼1	
		物理と地学の基礎	未開講 1・2・3・4前 未開講 1・2・3・4前		2							兼1	
		環境化学の基礎	1・2・3・4後		2							兼1	
		実験と科学	1・2・3・4後		2							兼1	
		健康スポーツ（理論）	1・2・3・4前	1			⚡					兼1	
		健康スポーツ（実技）	1・2・3・4後	1								兼1	
		スポーツ実技Ⅰ	1・2・3・4前		1							兼1	
		スポーツ実技Ⅱ	1・2・3・4後		1							兼1	
	共生教養	共生と日本社会	1・2・3・4後		2							兼1	オムニバス 兼任前担当者（阪元勇輝）が退職し、同氏が兼任講師として就任。教学上の効果を考慮し、配当学期を変更(29)
		人権論	1・2・3・4前		2							兼1	
		ボランティア活動	1・2・3・4前		2							兼1	
		生活と環境	1・2・3・4後 1・2・3・4前		2							兼2	
	奈良・国際	奈良学	1・2・3・4前	2								兼1	オムニバス 共同（一部） ・履修希望者がいなかったため未開講(27) ・通常開講(28) ・吉岡隆之教授が退職し、兼任講師として就任(29) 集中・共同 ・履修希望者がいなかったためH26後期末開講(27) ・通常開講(28) ・吉岡隆之教授が退職し、兼任講師として就任(29) ・履修希望者がいなかったためH28後期末開講(29)
		文化コミュニケーション	1・2・3・4後		2							兼1	
		文化芸術交流論	1・2・3・4前 未開講 1・2・3・4前		2		⚡					兼2 兼1	
		文化芸術交流演習	1・2・3・4後 未開講 1・2・3・4後		1		⚡					兼2 兼1	
		国際経済事情	1・2・3・4後		2							兼1	
	情報教養	情報機器の操作	1・2・3・4前	2				1					※演習
		情報倫理とセキュリティ	1・2・3・4前		2							兼1	※演習
		シミュレーションの世界	1・2・3・4後		2							兼1	
		データの世界	1・2・3・4前		2							兼1	
		C Gの基礎と演習	1・2・3・4後		2							兼1	※演習
	キャリア形成	キャリアデザインⅠ	1前		1							兼1	共同 ・勝眞久美子専任講師が退職し兼任講師として就任(27) ・吉岡隆之教授が退職し、兼任講師として就任(29) ・勝眞久美子専任講師が退職し、兼任講師が就任(27) ・履修希望者がいなかったため未開講(27) ・履修希望者がいなかったため未開講(28) ・通常開講(29) 共同 ・勝眞久美子専任講師が退職し兼任講師として就任(27) ・吉岡隆之教授が退職し、兼任講師として就任(29) 共同 ・勝眞久美子専任講師が退職し兼任講師として就任(27) ・科目担当の兼任講師を1名追加(28) ・吉岡隆之教授が退職し、兼任講師として就任。兼任柴田由紀子氏辞任（29） 共同 ・勝眞久美子専任講師が退職し兼任講師として就任(27) ・吉岡隆之教授が退職し、兼任講師として就任(29)
		キャリアデザインⅡ	1前		1		⚡	1	⚡			兼4 兼3	
		キャリアディベロップメントⅠ	2前 未開講 2前		1				⚡			兼1	
		キャリアディベロップメントⅡ	2前		1		⚡	1	⚡			兼5 兼4 兼3	
		キャリアスキルアップⅠ	3前		1		⚡	1	⚡			兼5 兼4 兼3	
		キャリアスキルアップⅡ	4前		1		⚡	1	⚡			兼5 兼4 兼3	
	小計（52科目）25単位以上		－	10	72	0	0 ⚡	1	⚡	0	0	兼30 兼33 兼32 兼29	

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					備 考
			必 修	選 択	自 由	教 授	准教授	講 師	助 教	助 手	
専門基礎科目	保健医療学概論	1前	1			1 3					兼1 オムニバス ・吉岡隆之教授、中川晶教授が退職（29） ・兼任講師を1名追加（29）
	早期体験演習	1前	1			4 3	4 1	5 3	3 4 5	5	兼5 兼7 兼8
						1	2	2	6	3	兼4 集中・共同 ・上山千恵子が助教として就任を辞退し兼任講師として就任（26） ・教育指導体制充実のため瀬山由美子、新道理香、山本和恵兼任講師を新規採用（26） ・三毛美恵子准教授が退職、後任として中馬成子教授を新規採用。平成26年9月教員審査（27） ・教育指導体制充実のため若林たけ子教授を新規採用。平成27年1月教員審査（27） ・出原弥和助教が講師に昇任。平成27年1月教員審査（27） ・上山千恵子兼任講師が助手に就任（27） ・前担当者退職等の理由により、教員を追加（28） 担当 新谷奈苗（教授） 平成28年1月教員審査済 判定 可 担当 梶村郁子（講師） 平成28年1月教員審査済 判定 可 担当 松浦純平（講師） 平成28年1月教員審査済 判定 可 担当 立川茂樹（講師） 平成28年1月教員審査済 判定 可 担当 川口ちづる（講師） 平成28年1月教員審査済 判定 可 担当 井上葉子（助教） 平成27年7月教員審査済 判定 可 担当 丸上輝剛（助教） 平成28年1月教員審査済 判定 可 ・昇任により、職位の変更（28） 担当 田中和奈（准教授） 平成27年11月教員審査済 判定 可 ・前担当者が自己都合により退職（28） 岡本響子（准教授） 大山真貴子（講師） 出原弥和（講師） 高橋晶（助教） 高橋里沙（助教） ・兼任講師2名が専任助手に就任（28） ・昇任により、職位の変更（29） 担当 松浦純平（准教授） 平成29年2月教員審査済 判定 可 ・前担当者が自己都合により退職（29） 大濱恵美子（助教） ・前担当者退職等の理由により、教員を追加（29） 担当 美甘祥子（准教授） 平成29年2月教員審査済 判定 可 担当 芝田ゆかり（准教授） 平成29年2月教員審査済 判定 可 担当 大山末美（講師） 平成28年8月教員審査済 判定 可
	人体構造学Ⅰ	1前	1								兼1
	人体構造学Ⅱ	1後	1								兼1
	人体機能学Ⅰ	1前	1								兼1
	人体機能学Ⅱ	1後	1								兼1
	生化学	1前	1								兼1
	薬理学	1後	2								兼1
	免疫学	2前		1							兼1
	病理学	1後	1								兼1
	微生物学	1後	1								兼1
	遺伝学	2前		1							兼1
	栄養と食生活	1前	1								兼1
	疾病治療論Ⅰ	2前	1								兼3 オムニバス

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					備 考
			必 修	選 択	自 由	教 授	准教授	講 師	助 教	助 手	
専 門 科 目	看護学 の 基 本	基礎看護技術演習Ⅱ	2前	2		1	±	1	1	2 ±	兼1 共同 ・教育指導体制充実のため吉村雅世教授が科目追加。平成27年1月教員審査(27) ・三毛美恵子准教授が退職(27) ・前担当者退職等の理由により、教員を追加(28) 担当 丸上輝剛(助教) 平成28年1月教員審査済 判定 可 ・前担当者が自己都合により退職(28) 高橋里沙(助教) ・兼任講師に代わり助手を増員配置(28)
		基礎看護技術演習Ⅲ	2前	1		1	±	1	1	±	
		看護理論	1後	1		2 ±	±				
		看護過程演習	2前	1		1	±	1	±	2 ±	
		ヘルスアセスメント	2前	1		1 2 ±	1 ±	3			
											兼2 共同 ・教育指導体制充実のため吉村雅世教授が科目追加。平成27年1月教員審査(27) ・三毛美恵子准教授が退職(27) ・教育指導体制充実のため兼任講師2名を新規採用(27) ・前担当者退職等の理由により、教員を追加(28) 担当 丸上輝剛(助教) 平成28年1月教員審査済 判定 可 ・前担当者が自己都合により退職(28) 高橋里沙(助教) ・兼任講師に代わり助手を増員配置(28) ・兼任講師を1名追加 (29) ※演習 ・三毛美恵子准教授が退職、後任として中馬成子教授を新規採用。平成26年9月教員審査(27) 共同 ・三毛美恵子准教授が退職、後任として中馬成子教授を新規採用。平成26年9月教員審査(27) ・前担当者が自己都合により退職(28) 高橋里沙(助教) ・助手を増員配置(28) 兼1 藤原向子准教授が退職(27) ・兼任講師を新規採用。後任を平成27年7月教員審査提出予定(27) ・前担当者退職等の理由により、教員を追加(28) ・前担当者が自己都合により退職(29) 坊垣友美(教授) ・前担当者退職等の理由により、教員を追加(29) 担当 大山末美(講師) 平成28年8月教員審査済 判定 可 ・昇任により、職位の変更(29) 担当 松浦純平(准教授) 平成29年2月教員審査済 判定 可

科目 区分		授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					備 考	
				必 修	選 択	自 由	教 授	准教授	講 師	助 教	助 手		
専門科目	看護学の基本	チーム医療論	1後	1			2 1					兼1	オムニバス ・兼任から専任へ職位の変更(28) 担当 辻下守弘(教授) 平成27年11月教員審査済 判定 可
		保健医療倫理学	1後	1			1					兼1	※演習 ・中川晶教授が退職し、兼任講師として就任(29)
		基礎看護学実習Ⅰ	1後	1			4 3 1	3 1 3	4 5 4	3 4 5	5 3 2	兼8 兼10 兼12 兼5	集中・共同 ・上山千恵子が助教として就任を辞退し兼任講師として就任(26) ・教育指導体制充実のため大内田靖子兼任講師(H27から助手)の科目追加(26) ・教育指導体制充実のため山田満智子、宮田英子、山本智子兼任講師の科目追加(26) ・教育指導体制充実のため瀬山由美子、新道理香、八幡尚見兼任講師を新規採用(26) ・三毛美恵子准教授が退職、後任として中馬成子教授を新規採用。平成26年9月教員審査(27) ・教育指導体制充実のため若林たけ子教授を新規採用。平成27年1月教員審査(27) ・藤原尚子准教授が退職(27) ・出原弥和助教が講師に昇格。平成27年1月教員審査(27) ・上山千恵子兼任講師が助手に就任、大内田助手が辞任(27) ・教授の就任を受け兼任講師1名が退職(27) ・前担当者退職等の理由により、教員を追加(28) 担当 新谷奈苗(教授) 平成28年1月教員審査済 判定 可 担当 梶村郁子(講師) 平成28年1月教員審査済 判定 可 担当 松浦純平(講師) 平成28年1月教員審査済 判定 可 担当 立川茂樹(講師) 平成28年1月教員審査済 判定 可 担当 川口ちづる(講師) 平成28年1月教員審査済 判定 可 担当 井上葉子(助教) 平成27年7月教員審査済 判定 可 担当 丸上輝剛(助教) 平成28年1月教員審査済 判定 可 ・昇任により、職位の変更(28) 担当 田中和奈(准教授) 平成27年11月教員審査済 判定 可 ・前担当予定者が自己都合により就任辞退(28) 尾ノ井美由紀(准教授) 光井朱美(講師) 肥後雅子(助教) ・前担当者が自己都合により退職(28) 廣川聖子(講師) 大山真貴子(講師) 出原弥和(講師) 高橋晶(助教) 高橋里沙(助教) ・兼任講師2名が専任助手に就任(28) ・昇任により、職位の変更(29) 担当 松浦純平(准教授) 平成29年2月教員審査済 判定 可 ・前担当者退職等の理由により、教員を追加(29) 担当 芝田ゆかり(准教授) 平成29年2月教員審査済 判定 可 担当 大山末美(講師) 平成28年8月教員審査済 判定 可

科目 区分		授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					備 考	
				必 修	選 択	自 由	教 授	准教授	講 師	助 教	助 手		
専門科目	看護学の基本	基礎看護学実習Ⅱ	2前	2			5 4 2	3 1 2 4		2 3 4 5	5 3 1	兼4 兼6 兼4	集中・共同 上山千恵子が助教として就任を辞退し兼任講師として就任(26) ・教育指導体制充実のため若林たけ子教授を新規採用。平成27年1月教員審査(27) ・三毛美恵子准教授が退職、後任として中馬成子教授を新規採用。平成26年9月教員審査(27) ・藤原向子准教授が退職(27) ・上山千恵子兼任講師が助手に就任(27) ・田中里奈助手を新規採用(27) ・前担当者退職等の理由により、教員を追加(28) 担当 新谷奈苗(教授) 平成28年1月教員審査済 判定 可 担当 梶村郁子(講師) 平成28年1月教員審査済 判定 可 担当 松浦純平(講師) 平成28年1月教員審査済 判定 可 担当 立川茂樹(講師) 平成28年1月教員審査済 判定 可 担当 川口ちづる(講師) 平成28年1月教員審査済 判定 可 担当 井上葉子(助教) 平成27年7月教員審査済 判定 可 担当 丸上輝剛(助教) 平成28年1月教員審査済 判定 可 ・昇任により、職位の変更(28) 担当 田中和奈(准教授) 平成27年11月教員審査済 判定 可 ・前担当予定者が自己都合により就任辞退(28) 尾ノ井美由紀(准教授) 光井朱美(講師) 肥後雅子(助教) ・前担当者が自己都合により退職(28) 廣川聖子(講師) 大山真貴子(講師) 出原弥和(講師) 高橋晶(助教) 高橋里沙(助教) ・昇任により、職位の変更(29) 平担当 松浦純平(准教授) 平成29年2月教員審査済 判定 可 ・前担当者が自己都合により退職(29) 大濱恵美子(助教) ・前担当者退職等の理由により、教員を追加(29) 担当 芝田ゆかり(准教授) 平成29年2月教員審査済 判定 可 担当 大山末美(講師) 平成28年8月教員審査済 判定 可
		成人看護学概論	2前	2			2 3 2						オムニバス ・教育指導体制充実のため教員を追加(28) 担当 中馬成子(教授) 平成27年11月教員審査済 判定 可 ・前担当者が自己都合により退職(29) 坊垣友美(教授)

科目 区分		授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					備 考	
				必 修	選 択	自 由	教 授	准教授	講 師	助 教	助 手		
専 門 科 目	看護学 の統合と発展	成人看護学援助論Ⅰ（急性期・周手術期）	2後	2			1 2 ±	1 ±	2 ±	±		兼3 兼1	※演習・共同 ・藤原向子准教授が退職。後任を平成27年7月教員審査提出予定(27) ・前担当者退職等の理由により、教員を追加(28) 担当 中馬成子（教授） 平成27年11月教員審査済 判定 可 担当 梶村郁子（講師） 平成28年1月教員審査済 判定 可 担当 松浦純平（講師） 平成28年1月教員審査済 判定 可 ・前担当予定者が自己都合により就任辞退(28) 肥後雅子（助教） ・前担当者が自己都合により退職(28) 廣川聖子（講師） ・兼任講師2名を追加(28) ・昇任により、職位の変更(29) 担当 松浦純平（准教授） 平成29年2月教員審査済 判定 可 ・前担当者が自己都合により退職(29) 坊垣友美（教授） ・前担当者退職等の理由により、教員を追加(29) 担当 大山末美（講師） 平成28年8月教員審査済 判定 可
		成人看護学援助論Ⅱ（慢性期・回復期・終末期）	3前	2			1 2 ±	±	2 ±	±		兼1 兼3 兼1	※演習・共同 ・藤原向子准教授が退職。後任を平成27年7月教員審査提出予定(27) ・前担当者退職等の理由により、教員を追加(28) 担当 中馬成子（教授） 平成27年11月教員審査済 判定 可 担当 梶村郁子（講師） 平成28年1月教員審査済 判定 可 ・前担当予定者が自己都合により就任辞退(28) 肥後雅子（助教） ・前担当者が自己都合により退職(28) 大山真貴子（講師） ・兼任講師2名をを追加(28) ・前担当者が自己都合により退職(29) 坊垣友美（教授） ・前担当者退職等の理由により、教員を追加(29) 担当 大山末美（講師） 平成28年8月教員審査済 判定 可 ・兼任講師2名退職(29)
		老年看護学概論	2後	2			1						※演習・共同（一部） ・昇任により、職位の変更(28) 担当 田中和奈（准教授） 平成27年11月教員審査済 判定 可 ・教育指導体制充実のため教員を追加(28) 担当 川口ちづる（講師） 平成28年1月教員審査済 判定 可
		老年看護学援助論	3前	2			1	1	1				
		小児看護学概論	2後	2			1						
		小児看護学援助論	3前	2			1					2 ±	
		母性看護学概論	2後	2			1						※演習 ※演習 ・助手を1名追加（29）
		母性看護学援助論	3前	2				1 2 ±	±	1 2	2	兼1	

科目 区分		授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					備 考	
				必 修	選 択	自 由	教 授	准教授	講 師	助 教	助 手		
専 門 科 目	看護学 の 統 合 と 発 展	老年看護学実習Ⅱ	3後	2			1	1	1		1	兼4	集中・共同 ・昇任により、職位の変更(28) 担当 田中和奈（准教授） 平成27年11月教員審査済 判定 可 ・教育指導体制充実のため教員を追加(28) 担当 川口ちづる（講師） 平成28年1月教員審査済 判定 可
		小児看護学実習	3後	2			1				2 1	兼3 兼4	集中・共同 ・兼任講師が専任助手に就任(28)
		母性看護学実習	3後	2			1	1	1 2 1	1 2	2	兼5	集中・共同 ・出原弥和助教が講師に昇格。平成27年1月教員審査(27) ・前担当者が自己都合により退職(28) 出原弥和（講師） ・助手2名を追加(28) ・後任を選考中(28) 平成28年12月教員審査提出予定 ・前担当者が自己都合により退職(29) 西田絵美（講師） ・前担当者退職等の理由により、教員を追加(29) 担当 美甘祥子（准教授） 平成29年2月教員審査済 判定 可
		精神看護学実習	3後	2			1	1			1	兼4	集中・共同 ・前担当者が自己都合により退職(28) 岡本響子（准教授） ・助手を追加(28)
	看護学 の 統 合 と 発 展	在宅看護学概論	2後	2			1					※演習・共同(一部) ・教育指導体制充実のため教員を追加(28) 担当 川口ちづる（講師） 平成28年1月教員審査済 判定 可 ・前担当者が自己都合により退職(29) 大濱恵美子（助教）	
		在宅看護学援助論	3前	2			1		1	1 1			
		在宅看護学実習	3後	2			1	2 1	1	1 2 1	3 1	兼14 兼16	集中・共同 ・昇任により、職位の変更(28) 担当 田中和奈（准教授） 平成27年11月教員審査済 判定 可 ・教育指導体制充実のため教員を追加(28) 担当 川口ちづる（講師） 平成28年1月教員審査済 判定 可 ・兼任講師2名が専任助手に就任(28) ・前担当者が自己都合により退職(29) 大濱恵美子（助教） ・前担当者退職等の理由により、教員を追加(29) 担当 芝田ゆかり（准教授） 平成29年2月教員審査済 判定 可
		家族援助論	2前		1				1 1			兼1	・専任が自己都合で退職し兼任講師として担当(28) 廣川聖子（講師） ・兼任講師が自己都合により退職(29) ・前担当者退職等の理由により、教員を追加(29) 担当 川口ちづる（講師） 平成28年12月教員審査済 判定 可
		行動変容アプローチ	3前		1		1					兼1	・中川晶教授が退職し、兼任講師として就任（29）

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					備 考
			必 修	選 択	自 由	教 授	准教授	講 師	助 教	助 手	
専門科目	看護学の統合と発展	チーム医療演習	1			1					兼1 兼2 共同 ・兼任から専任へ職位の変更(28) 担当 辻下守弘(教授) 平成27年11月教員審査済 判定 可 ・兼任講師が就任辞退(29)
		感染症看護論		1							兼1
		災害看護論		1							兼1
		ターミナルケア論		1		2 3					※演習 オムニバス ・前担当者が自己都合により退職(29) 坊垣友美(教授)
		医療安全管理学	1								兼1
		看護キャリア開発論		1				±			兼1
		保健医療英語Ⅰ		1							兼1
		保健医療英語Ⅱ(文献講読)		1							兼1
		国際保健医療看護論	1				1	1 ±	±		兼1 ※演習・共同 ・昇任により、職位の変更(28) 担当 田中和奈(准教授) 平成27年11月教員審査済 判定 可 ・専任が自己都合で退職し兼任講師として担当(28) 高橋晶(助教) ・兼任講師が自己都合で退職(29) ・前担当者退職等の理由により、教員を追加(29) 担当 立川茂樹(講師) 平成28年12月教員審査済 判定 可
		国際保健医療看護演習		1		1 2	1	1 ±	±		兼1 兼3 兼2 集中・共同 ・昇任により、職位の変更(28) 担当 田中和奈(准教授) 平成27年11月教員審査済 判定 可 ・専任が自己都合で退職し兼任講師として担当(28) 高橋晶(助教) ・兼任講師2名が自己都合で退職(29) ・前担当者が自己都合により退職(29) 吉岡隆之(教授) ・前担当者退職等の理由により、教員を追加(29) 担当 立川茂樹(講師) 平成28年12月教員審査済 判定 可

科目 区分		授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					備 考	
				必 修	選 択	自 由	教 授	准教授	講 師	助 教	助 手		
専 門 科 目	看護学の統合と発展	統合看護学実習	4前	2			6 7 5	4 1	4 3	3 4 5	4 3 2	兼6 兼8 兼9	集中・共同 ・出原弥和助教が講師に昇格。平成27年1月教員審査(27) ・教育指導体制充実のため教員を追加(28) 担当 中馬成子(教授) 平成27年11月教員審査済 判定 可 担当 新谷奈苗(教授) 平成28年1月教員審査済 判定 可 ・前担当者退職等の理由により、教員を追加(28) 担当 梶村郁子(講師) 平成28年1月教員審査済 判定 可 担当 松浦純平(講師) 平成28年1月教員審査済 判定 可 担当 立川茂樹(講師) 平成28年1月教員審査済 判定 可 担当 川口ちづる(講師) 平成28年1月教員審査済 判定 可 担当 井上葉子(助教) 平成27年7月教員審査済 判定 可 担当 丸上輝剛(助教) 平成28年1月教員審査済 判定 可 ・昇任により、職位の変更(28) 担当 田中和奈(准教授) 平成27年11月教員審査済 判定 可 ・前担当予定者が自己都合により就任辞退(28) 肥後雅子(助教) ・前担当者が自己都合により退職(28) 岡本響子(准教授) 廣川聖子(講師) 大山真貴子(講師) 出原弥和(講師) 高橋里沙(助教) ・兼任講師が専任助手に就任(28) ・前担当者が自己都合により退職(29) 坊垣友美(教授) ・前担当者が自己都合により退職(29) 大濱恵美子(助教) ・昇任により、職位の変更(29) 担当 松浦純平(准教授) 平成29年2月教員審査済 判定 可 ・前担当者退職等の理由により、教員を追加(29) 担当 美甘祥子(准教授) 平成29年2月教員審査済 判定 可 担当 芝田ゆかり(准教授) 平成29年2月教員審査済 判定 可 担当 大山末美(講師) 平成28年8月教員審査済 判定 可
		卒業研究 I	4前	1			2						

科目 区分		授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					備 考
				必 修	選 択	自 由	教 授	准教授	講 師	助 教	助 手	
専 門 科 目	看護学 の 統 合 と 発 展	卒業研究Ⅱ	4前後	1			10 11 9 7	4 1 2 5	5 6 7 6	3 4 5 6	3	集中・共同 ・教育指導体制充実のため若林たけ子教授を新規採用。平成27年1月教員審査(27) ・三毛美恵子准教授が退職、後任として中馬成子教授を新規採用。平成26年9月教員審査(27) ・藤原尚子准教授、家根明子准教授が退職(27) ・出原弥和助教が講師に昇格。平成27年1月教員審査(27) ・教育指導体制充実のため教員を追加(28) 担当 新谷奈苗(教授) 平成28年1月教員審査済 判定 可 担当 辻下守弘(教授) 平成27年11月教員審査済 判定 可 ・前担当者退職等の理由により、教員を追加(28) 担当 梶村郁子(講師) 平成28年1月教員審査済 判定 可 担当 松浦純平(講師) 平成28年1月教員審査済 判定 可 担当 立川茂樹(講師) 平成28年1月教員審査済 判定 可 担当 川口ちづる(講師) 平成28年1月教員審査済 判定 可 担当 井上葉子(助教) 平成27年7月教員審査済 判定 可 担当 丸上輝剛(助教) 平成28年1月教員審査済 判定 可 ・昇任により、職位の変更(28) 担当 田中和奈(准教授) 平成27年11月教員審査済 判定 可 ・前担当予定者が自己都合により就任辞退(28) 尾ノ井美由紀(准教授) 光井朱美(講師) 肥後雅子(助教) ・前担当者が自己都合により退職(28) 岡本響子(准教授) 廣川聖子(講師) 大山真貴子(講師) 出原弥和(講師) 高橋晶(助教) 高橋里沙(助教) ・前担当者が自己都合により退職(29) 坊垣友美(教授) ・前担当者が自己都合により退職(29) 西田絵美(講師) 大濱恵美子(助教) ・昇任により、職位の変更(29) 担当 松浦純平(准教授) 平成29年2月教員審査済 判定 可 ・前担当者退職等の理由により、教員を追加(29) 担当 美甘祥子(准教授) 平成29年2月教員審査済 判定 可 担当 芝田ゆかり(准教授) 平成29年2月教員審査済 判定 可 担当 大山末美(講師) 平成28年8月教員審査済 判定 可
	公衆衛生看護学	公衆衛生看護学概論	2前	2				1 1				兼1 ・平成28年度就任准教授の兼任講師就任遅れのため、新谷兼任講師の科目追加(27) ・前担当予定者が自己都合により就任辞退(28) 尾ノ井美由紀(准教授) ・兼任講師の変更(28) ・兼任講師の就任辞退のため、教員を追加(29) 担当 芝田ゆかり(准教授) 平成29年2月教員審査済 判定 可

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					備 考
			必 修	選 択	自 由	教 授	准教授	講 師	助 教	助 手	
専門科目	公衆衛生看護学	公衆衛生看護学方法論Ⅰ	3前		2		1	1	1	1	オムニバス・※演習 専任補充(1名) ・家根明子准教授が退職。後任を平成27年7月教員審査提出予定(27) ・前担当者退職等の理由により、教員を追加(28) 担当 新谷奈苗(教授) 平成28年1月教員審査済 判定 可 担当 立川茂樹(講師) 平成28年1月教員審査済 判定 可 担当 井上葉子(助教) 平成27年7月教員審査済 判定 可 ・助手を追加(28) ・教育指導体制充実のため教員を追加(29) 担当 芝田ゆかり(准教授) 平成29年2月教員審査済 判定 可
		公衆衛生看護学方法論Ⅱ	3前		2		1	1	1	1	
		公衆衛生看護学Ⅰ(地域活動)	2後	2			1	1	1	1	
		公衆衛生看護学Ⅱ(学校保健)	3前		2						

科目 区分		授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					備 考	
				必 修	選 択	自 由	教 授	准教授	講 師	助 教	助 手		
専門科目	公衆衛生看護学	公衆衛生看護学Ⅲ(産業保健)	3前	2			1		1		1	兼1	・兼任から専任へ職位の変更(28) 担当 新谷奈苗(教授) 平成28年1月教員審査済 判定 可 ・教育指導体制充実のため教員を追加(28) 担当 立川茂樹(講師) 平成28年1月教員審査済 判定 可 ・助手を追加(28)
		公衆衛生看護学実習Ⅰ(地域活動)	4通		3		1	1 1 2	1	1	1	兼1 兼3	集中・共同 ・家根明子准教授が退職。後任を平成27年7月教員審査提出予定(27) ・前担当者退職等の理由により、教員を追加(28) 担当 新谷奈苗(教授) 平成28年1月教員審査済 判定 可 担当 立川茂樹(講師) 平成28年1月教員審査済 判定 可 担当 井上葉子(助教) 平成27年7月教員審査済 判定 可 ・前担当予定者が自己都合により就任辞退(28) 尾ノ井美由紀(准教授) 光井朱美(講師) ・前担当者が自己都合により退職(28) 高橋晶(助教) ・助手を追加(28) ・教育指導体制充実のため教員を追加(29) 担当 芝田ゆかり(准教授) 平成29年2月教員審査済 判定 可 ・兼任講師2名が就任辞退(29)
		公衆衛生看護学実習Ⅱ(学校保健)	4前		1		1	1 1 2	1	1	1	兼1	集中・共同 ・家根明子准教授が退職。後任を平成27年7月教員審査提出予定(27) ・前担当者退職等の理由により、教員を追加(28) 担当 新谷奈苗(教授) 平成28年1月教員審査済 判定 可 担当 立川茂樹(講師) 平成28年1月教員審査済 判定 可 担当 井上葉子(助教) 平成27年7月教員審査済 判定 可 ・前担当予定者が自己都合により就任辞退(28) 尾ノ井美由紀(准教授) 光井朱美(講師) ・前担当者が自己都合により退職(28) 高橋晶(助教) ・助手を追加(28) ・教育指導体制充実のため教員を追加(29) 担当 芝田ゆかり(准教授) 平成29年2月教員審査済 判定 可

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					備 考
			必 修	選 択	自 由	教 授	准教授	講 師	助 教	助 手	
専 門 科 目	公衆衛生看護学	公衆衛生看護学実習Ⅲ(産業保健)	4前			1	1 1 2	1	1	1	兼1 兼2 集中・共同 ・家根明子准教授が退職。後任を平成27年7月教員審査提出予定(27) ・前担当者退職等の理由により、教員を追加(28) 担当 新谷奈苗(教授) 平成28年1月教員審査済 判定 可 担当 立川茂樹(講師) 平成28年1月教員審査済 判定 可 担当 井上葉子(助教) 平成27年7月教員審査済 判定 可 ・前担当予定者が自己都合により就任辞退(28) 尾ノ井美由紀(准教授) 光井朱美(講師) ・前担当者が自己都合により退職(28) 高橋晶(助教) ・助手を追加(28) ・教育指導体制充実のため教員を追加(29) 担当 芝田ゆかり(准教授) 平成29年2月教員審査済 判定 可 ・兼任講師1名が就任辞退(29)
		公衆衛生看護学診断演習	4前			1	1 1 2	1	1		
	助産学	助産学概論	3前			1					兼1 ・兼任講師を1名追加(29) ・前担当者が自己都合により退職(29) 西田絵美(講師) ・前担当者退職等の理由により、教員を追加(29) 担当 美甘祥子(准教授) 平成29年2月教員審査済 判定 可 兼1 ※演習・共同 ・出原弥和助教が講師に昇格。平成27年1月教員審査(27) ・前担当者が自己都合により退職(28) 出原弥和(講師) ・後任を選考中(28) 平成28年12月教員審査提出予定 ・前担当者が自己都合により退職(29) 西田絵美(講師) ・前担当者退職等の理由により、教員を追加(29) 担当 美甘祥子(准教授) 平成29年2月教員審査済 判定 可 兼1 ※演習・集中 共同(一部) 授業進度を考慮し変更(26) ・前担当者が自己都合により退職(28) 西田絵美(講師) ・前担当者退職等の理由により、教員を追加(29) 担当 美甘祥子(准教授) 平成29年2月教員審査済 判定 可
		ウイメンズヘルス学	3前			1	1	1			
		周産期医学	3前								
		助産診断・技術学Ⅰ	3前			1	1	1 2 1	1	1	
		助産診断・技術学Ⅱ	3後 3通				1	1	1	1	

科目 区分		授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					備 考
				必 修	選 択	自 由	教 授	准教授	講 師	助 教	助 手	
専門科目	助産学	助産診断・技術学Ⅲ	3後 3通		2		1	1	±	1 2		※演習・集中 共同(一部) 授業進度を考慮し変更(26) ・出原弥和助教が講師に昇格。平成27年1月教員審査(27) ・前担当者が自己都合により退職(28) 出原弥和 (講師) ・後任を選考中(28) 平成28年12月教員審査提出予定 ・前担当者退職等の理由により、教員を追加(29) 担当 美甘祥子 (准教授) 平成29年2月教員審査済 判定 可 共同 ・出原弥和助教が講師に昇格。平成27年1月教員審査(27) ・前担当者が自己都合により退職(28) 出原弥和 (講師) ・後任を選考中(28) 平成28年12月教員審査提出予定 ・前担当者が自己都合により退職(28) 西田絵美 (講師) ・前担当者退職等の理由により、教員を追加(29) 担当 美甘祥子 (准教授) 平成29年2月教員審査済 判定 可 集中・共同 ・出原弥和助教が講師に昇格。平成27年1月教員審査(27) ・前担当者が自己都合により退職(28) 出原弥和 (講師) ・後任を選考中(28) 平成28年12月教員審査提出予定 ・兼任講師2名が専任助手に就任(28) ・前担当者が自己都合により退職(28) 西田絵美 (講師) ・前担当者退職等の理由により、教員を追加(29) 担当 美甘祥子 (准教授) 平成29年2月教員審査済 判定 可 集中・共同 ・出原弥和助教が講師に昇格。平成27年1月教員審査(27) ・前担当者が自己都合により退職(28) 出原弥和 (講師) ・後任を選考中(28) 平成28年12月教員審査提出予定 ・兼任講師2名が専任助手に就任(28) ・前担当者が自己都合により退職(28) 西田絵美 (講師) ・前担当者退職等の理由により、教員を追加(29) 担当 美甘祥子 (准教授) 平成29年2月教員審査済 判定 可 集中・共同 ・出原弥和助教が講師に昇格。平成27年1月教員審査(27) ・前担当者が自己都合により退職(28) 出原弥和 (講師) ・後任を選考中(28) 平成28年12月教員審査提出予定 ・兼任講師2名が専任助手に就任(28) ・前担当者が自己都合により退職(28) 西田絵美 (講師) ・前担当者退職等の理由により、教員を追加(29) 担当 美甘祥子 (准教授) 平成29年2月教員審査済 判定 可
		助産診断・技術学演習	4前		2			1	± 2 ±	1 2		
		助産診断・技術学実習Ⅰ	4通		3		1	1	± 2 ±	1 2	2	
		助産診断・技術学実習Ⅱ	4通		2		1	1	± 2 ±	1 2	2	
		助産診断・技術学実習Ⅲ	4通		3		1	1	± 2 ±	1 2	2	

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					備 考
			必 修	選 択	自 由	教 授	准教授	講 師	助 教	助 手	
	助産診断・技術学実習Ⅳ	4通		3		1	1	1 2 1	1 2	2	兼6 兼8 集中・共同 ・出原弥和助教が講師に昇格。平成27年1月教員審査(27) ・前担当者が自己都合により退職(28) 出原弥和 (講師) ・後任を選考中(28) 平成28年12月教員審査提出予定 ・兼任講師2名が専任助手に就任(28) ・前担当者が自己都合により退職(28) 西田絵美 (講師) ・前担当者退職等の理由により、教員を追加(29) 担当 美甘祥子(准教授) 平成29年2月教員審査済 判定 可
	地域母子保健	4前		1		1		1			※演習・共同(一部) ・前担当者が自己都合により退職(29) 西田絵美 (講師)
	助産管理論	4前		2		1	1				・教育指導体制充実のため教員を追加(29) 担当 美甘祥子(准教授) 平成29年2月教員審査済 判定 可
	小計 (70科目) 76単位以上	-	72	49	0	13 11 9	1 2 5	6 7	4 5 6 7	6 3	兼26 兼32 兼31 兼26
	合計 (146科目) 125単位以上		103	131	0	11 13 11 9	5 2 3 6	5 5 6 7	3 4 5 6 7	7 6 3	兼84 兼81 兼76 兼71

- (注) ・ 認可申請書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・ 設置認可時の授業科目全て(兼任、兼担教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。その上で、前年度報告時(平成28年度に認可(届出)された大学等は設置認可(届出)時)より変更されているものは赤字見え消し修正し、「備考」に赤字で理由・変更年月等を記入してください。
 - ・ 兼任、兼担の教員が担当する授業科目については、備考欄に担当する教員数を「兼〇」と記入してください。
 - ・ 授業科目を追加又は内容を変更する場合で、専任教員が担当するため教員審査が必要なものについては、「専任教員採用等設置計画変更書」の審査予定年月等を「備考」に記入してください。(今後審査を受ける場合には、「平成〇年〇月 提出予定」と記入してください。)
 - ・ 「配当年次」について、設置認可申請時に開講時期を記入する必要がなかった学部等(平成19年度認可以前)についても、設置認可時の状況を黒字で記入してください。また、前年度報告時より修正があれば、赤字で見え消し修正をしてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。

（2）授業科目数

設 置 時 の 計 画				変 更 状 況				備 考
必 修	選 択	自 由	計	必 修	選 択	自 由	計	
科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	
66	80	0	146	66	80	0	146	
				[0]	[0]	[0]	[0]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由，代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず，何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお，理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については，記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は，「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由，代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり，何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお，理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は，「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目と廃止科目の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計}} = \frac{0}{146} = \boxed{0}$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て，小数点以下第2位までを記入してください。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が，「(3) 未開講科目」と「(4) 廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考			
(1)校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	【三郷キャンパス】 キャンパス内に野球場等のグラウンドを所有しているが、別にサッカー陸上グラウンドを徒歩20分2kmの距離に所有している。 運動場用地及びその他を三郷中学校の全面建て替え工事に伴う仮設校舎建築のための用地等に三郷町に貸与した。貸与期間：平成28年7月から平成31年6月まで。H28.6.28に「設置室」と「私学行政課」に届出済み。(29) 【登美ヶ丘キャンパス】 校舎敷地は奈良文化女子短期大学と共用 運動場用地は奈良文化女子短期大学、奈良学園小学校、奈良学園登美ヶ丘中学校・高等学校と共用 奈良学園小学校 収容定員 720人 基準面積 7,200㎡ 奈良学園登美ヶ丘中学校 収容定員 600人 基準面積 7,200㎡ 奈良学園登美ヶ丘高等学校 収容定員 675人 基準面積 8,400㎡ ※基準面積は全て運動用敷地			
	校 舎 敷 地	53,750.43㎡	28,663.00㎡	31,155.00㎡	113,568.43㎡				
	運動場用地	121,214.58㎡ 123,614.58㎡	35,609.00㎡	0.00㎡	156,823.58㎡ 159,223.58㎡				
	小 計	174,965.01㎡ 177,365.01㎡	64,272.00㎡	31,155.00㎡	270,392.01㎡ 272,792.01㎡				
	そ の 他	24,330.00㎡ 26,380.00㎡	0.00㎡	0.00㎡	24,330.00㎡ 26,380.00㎡				
	合 計	199,295.01㎡ 203,745.01㎡	64,272.00㎡	31,155.00㎡	294,722.01㎡ 299,172.01㎡				
(2)校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	共用は奈良文化女子短期大学、共用する他の学校等の専用は奈良学園幼稚園、奈良学園小学校、奈良学園登美ヶ丘中学校・高等学校 奈良学園幼稚園 収容定員 155人 基準面積 620㎡ 奈良学園小学校 収容定員 720人 基準面積 3,420㎡ 奈良学園登美ヶ丘中学校 収容定員 600人 基準面積 3,720㎡ 奈良学園登美ヶ丘高等学校 収容定員 675人 基準面積 4,140㎡			
		27,904.85㎡ (27,904.85㎡)	11,801.07㎡ (11,801.07㎡)	17,967.47㎡ (17,967.47㎡)	57,673.39㎡ (57,673.39㎡)				
(3)教 室 等		講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設			
		62室	27室	11室	7室 (補助職員 0人)	0室 (補助職員 0人)			
(4)専任教員研究室		新設学部等の名称			室 数				
		保健医療学部 看護学科			32 室				
(5)図書・設備	新設学部等の 名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	大学全体での共用分を含む図書 269,588 冊 (短大との共用分65,780冊を含む) 〔 32,407 冊〕 学術雑誌 1,350 種 〔380 冊〕 電子ジャーナル 238〔238〕 視聴覚資料 3,607 点 教育研究の充実を図るため前倒し整備(26) 計画通り整備(27) 絶版、品切れ重版予定なし等の事情により入荷できなかった書籍は代替書籍で整備したため冊数の変更が発生した。視聴覚資料及び機械・備品は、共同研究費の活用により計画時より充実した。これをもつて整備完了とした。(28)	
	保健医療学部 看護学科	4,896〔614〕 4,895〔614〕―― (4,896〔614〕) ――(3,860〔 430〕)―― ――(2,460〔 260〕)――	43〔 0〕	5〔 1〕	222 146 (222) ――(111)―― ――(76)――	8,441 8,398 (8,441) ――(7,823)―― ――(5,967)―― (5,499)	130 (130) (130) ――(98)―― ――(58)―― (57)		
	計	4,896〔614〕 4,895〔614〕―― (4,896〔614〕) ――(3,860〔 430〕)―― ――(2,460〔 260〕)――	43〔 0〕	5〔 1〕	222 146 (222) ――(111)―― ――(76)――	8,441 8,398 (8,441) ――(7,823)―― ――(5,967)―― (5,499)	130 (130) (130) ――(98)―― ――(58)―― (57)		
(6)図 書 館		面 積		閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		大学全体	
		4,564.29㎡		486席		378,000冊			
(7)体 育 館		面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体 登美ヶ丘キャンパスは体育館、その他のスポーツ施設は小・中・高・短大と共用)	
		7,221.27㎡		野球場 2面、サッカー場 4面、テニスコート10面					
(8)経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	図書費には電子ジャーナル・データベースを含む
		教員 1 人 当 り 研 究 費 等	500千円	500千円	図書購入費	20,389千円	8,421千円	6,295千円	
		共 同 研 究 費 等	2,000千円	2,000千円	設備購入費	196,669千円	30,369千円	1,599千円	
	学生1人当り 納付金	第 1 年 次	第 2 年 次	第 3 年 次	第 4 年 次	第 5 年 次	第 6 年 次	下段は4年次に助産履修を選択した場合	
		1,800千円	1,500千円	1,500千円	1,500千円 1,800千円	― 千円	― 千円		
	学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学等経常費補助金、資産運用収入、雑収入 等						

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はA C対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には平成29年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(29)」を「備考」に赤字で記入してください。
 - ・ なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4 既設大学等の状況

大 学 の 名 称	奈 良 学 園 大 学								備 考
既設学部等の名称	修業 年限	入 定 学 員	編入学 定 員	収 容 定 員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	開 設 年 度	所 在 地	平成26年学生募集停止 平成26年学生募集停止
《AC対象学部等》	年	人	年次 人	人		倍			
保健医療学部 看護学科	4	80	－	320	学士 (看護学)	1.08	平成26年度	奈良県奈良市 中登美ヶ丘三丁目15-1	
人間教育学部 人間教育学科	4	120	－	480	学士 (教育学)	0.98	平成26年度	奈良県生駒郡三郷町 立野北三丁目12-1	
ビジネス学科 ビジネス学部	4 4	－ －	－ －	－ －	学士 (ビジネス学)	－	平成19年度	同上	
情報学部 情報学科	4 4	－ －	－ －	－ －	学士 (情報学)	－	平成13年度	同上	
大 学 の 名 称	奈良学園大学奈良文化女子短期大学部								備 考
既設学部等の名称	修業 年限	入 定 学 員	編入学 定 員	収 容 定 員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	開 設 年 度	所 在 地	平成30年学生募集停止予定 (29)
幼児教育学科	2	100	－	200	短期大学士 (幼児教育学)	0.79	昭和44年度	奈良県奈良市 中登美ヶ丘三丁目15-1	

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者(学校法人等)が設置している全ての大学(学部、学科)、大学院(専攻)及び短期大学(学科)(AC対象学部等含む)について、それぞれの学校種ごとに、平成29年5月1日現在の上記項目の情報を記入してください。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに記入してください。
- ※「入学定員を定めている組織ごと」には、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
- ※なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている組織上の最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。
- ・専攻科に係るものについては、記入する必要はありません。
- ・AC対象学部等についても必ず記入してください。
- ・「平均入学定員超過率」には、標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点以下第2位まで(小数点以下第3位を切り捨て)を記入してください。
- ・学生募集を停止している学部等がある場合、入学定員・収容定員・平均入学定員超過率は「－」とし、「備考」に「平成〇〇年より学生募集停止」と記入してください。

5 教員組織の状況

<保健医療学部 看護学科>

(1) 担当教員表

設 置 時 の 計 画					変 更 状 況					備 考
専任・ 兼任・ 兼任 の別	職 名	氏 名 (年 齢)	就任予定 年月	担当授業科目名	専任・ 兼任・ 兼任 の別	職 名	氏 名 (年 齢)	就任予定 年月	担当授業科目名	
専	教授 (学部長)	守本 とも子 (63) (高)	平成26年4月	早期体験演習 保健医療学概論※ 看護理論 チーム医療論※ 基礎看護学実習Ⅰ 成人看護学概論※ ターミナルケア論※ 国際保健医療看護演習 卒業研究Ⅱ	専	教授 (学部長)	守本 とも子 (66) (高)	平成26年4月	早期体験演習 保健医療学概論※ 看護理論 チーム医療論※ 基礎看護学実習Ⅰ 成人看護学概論※ ターミナルケア論※ 国際保健医療看護演習 卒業研究Ⅱ 看護学概論	平成29年4月 当該科目の教育充実のため、担当科目を追加 平成28年11月教員審査済(29)
専	教授	坊垣 友美 (54)	平成26年4月	ヘルスアセスメント 成人看護学概論※ 成人看護学援助論Ⅰ (急性期・周手術期) 成人看護学援助論Ⅱ (慢性期・回復期・終末期) 成人看護学実習Ⅰ (急性期・周手術期) 成人看護学実習Ⅱ (慢性期・回復期・終末期) ターミナルケア論※ 統合看護学実習 卒業研究Ⅱ			後任未定			平成28年8月末 坊垣友美教授、自己都合により退職。 「ヘルスアセスメント」「成人看護学援助論Ⅰ」「成人看護学援助論Ⅱ」「成人看護学実習Ⅰ」「成人看護学実習Ⅱ」「統合看護学実習」「卒業研究Ⅱ」は担当者多数のため支障なし。「成人看護学概論」は守本とも子教授、中馬成子教授で担当、「ターミナルケア論」は守本教授、上本野唱子教授が担当し、平成29年6月の教員審査で専任補充予定。(29)
専	教授	吉村 雅世 (55)	平成26年4月	老年看護学概論 老年看護学援助論 老年看護学実習Ⅰ 老年看護学実習Ⅱ 統合看護学実習 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	専	教授	吉村 雅世 (55)	平成26年4月	老年看護学概論 老年看護学援助論 老年看護学実習Ⅰ 老年看護学実習Ⅱ 統合看護学実習 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 基礎看護技術演習Ⅰ 基礎看護技術演習Ⅱ 基礎看護技術演習Ⅲ	平成27年4月 教育体制充実のため担当教員を追加。 平成27年1月教員審査済み。(27)
専	教授	上本野 唱子 (61)	平成26年4月	小児看護学概論 小児看護学援助論 小児看護学実習 ターミナルケア論※ 統合看護学実習 卒業研究Ⅱ						
専	教授	服部 律子 (49)	平成28年4月	母性看護学概論 母性看護学実習 卒業研究Ⅱ 助産学概論 ウイメンズヘルス学 助産診断・技術学Ⅰ 助産診断・技術学Ⅲ 助産診断・技術学実習Ⅰ 助産診断・技術学実習Ⅱ 助産診断・技術学実習Ⅲ 助産診断・技術学実習Ⅳ 地域母子保健 助産管理論						
兼任	講師	服部 律子 (49)	平成27年10月	母性看護学概論						
専	教授	東中須 恵子 (61)	平成26年4月	基礎看護学実習Ⅱ 精神看護学概論 精神看護学援助論 精神看護学実習 統合看護学実習 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	専	教授	東中須 恵子 (62)	平成27年4月	基礎看護学実習Ⅱ 精神看護学概論 精神看護学援助論 精神看護学実習 統合看護学実習 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	平成26年4月 自己都合により就任年度を変更。 平成26年度開講科目が無いため支障なし。(26)

設 置 時 の 計 画					変 更 状 況					備 考
専任・兼任・の別	職 名	氏 名 (年 齢)	就任予定 年月	担当授業科目名	専任・兼任・の別	職 名	氏 名 (年 齢)	就任予定 年月	担当授業科目名	
専	教授	安藤 邑恵 (69) (高)	平成26年4月	基礎看護学実習Ⅱ 在宅看護学概論 在宅看護学援助論 在宅看護学実習 統合看護学実習 卒業研究Ⅱ						
専	教授	吉岡 隆之 (51)	平成26年4月	行動科学の基礎 感性・イメージ表現 健康スポーツ（理論） 文化芸術交流論※ 文化芸術交流演習 キャリアデザインⅡ キャリア ディベロップメントⅡ キャリア スキルアップⅠ キャリア スキルアップⅡ 保健医療学概論※ ヘルス プロモーション論※ 国際保健医療看護演習	兼任	講師	吉岡 隆之 (54)	平成28年10月	行動科学の基礎	平成28年9月末 吉岡隆之教授、自己都合により退職。 平成28年10月より平成29年3月まで非常勤講師として「行動科学の基礎」「感性イメージ表現」「文化芸術交流演習」を担当いただいた。 また、平成29年4月より非常勤講師として「文化芸術交流論」「キャリアデザインⅡ」「キャリアディベロップメント」「キャリアスキルアップⅠ」「キャリアスキルアップⅡ」を担当いただいている。(29)
					兼任	講師	吉岡 隆之 (54)	平成28年10月	感性・イメージ表現	
					兼任	講師	岡部 修一 (58)	平成29年4月	健康スポーツ（理論）	
					兼任	講師	吉岡 隆之 (54)	平成29年4月	文化芸術交流論	
					兼任	講師	吉岡 隆之 (54)	平成28年10月	文化芸術交流演習	
					兼任	講師	吉岡 隆之 (54)	平成29年4月	キャリアデザインⅡ	
					兼任	講師	吉岡 隆之 (54)	平成29年4月	キャリア ディベロップメントⅡ	
					兼任	講師	吉岡 隆之 (54)	平成29年4月	キャリア スキルアップⅠ	
					兼任	講師	吉岡 隆之 (54)	平成29年4月	キャリア スキルアップⅡ	
					兼任	講師	伊藤 博康 (67)	平成29年4月	保健医療学概論※	
					兼任	講師	伊藤 健一 (43)	平成29年4月	ヘルス プロモーション論※	
					兼任	講師	内藤 紀代子 (47)	平成29年4月	国際保健医療看護演習	
専	教授	中川 晶 (61)	平成26年4月	保健医療学概論※ 心身医療論 カウンセリング論 保健医療倫理学 行動変容アプローチ	兼任	講師	伊藤 博康 (67)	平成29年4月	保健医療学概論※	平成29年3月末 中川晶教授、自己都合により退職。「保健医療倫理学」については、中川晶氏が兼任となり平成29年度を担当するので、教育の質は保たれる。(29)
					兼任	講師	田中 佐和子 (52)	平成29年9月	心身医療論	
					兼任	講師	田中 佐和子 (52)	平成29年9月	カウンセリング論	
					兼任	講師	中川 晶 (64)	平成29年9月	保健医療倫理学	
					兼任	講師	矢野かおり (44)	平成29年4月	行動変容アプローチ	
専	准教授	三毛 美恵子 (59)	平成26年4月	早期体験演習 看護学概論※ 基礎看護技術演習Ⅰ 基礎看護技術演習Ⅱ 基礎看護技術演習Ⅲ 看護理論 看護過程演習 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 卒業研究Ⅱ	兼任	講師	中馬一成子 (56)	平成26年6月	看護学概論※	平成26年5月末 三毛美恵子准教授、疾病により療養のため、中馬成子兼任講師を6月初めに新規採用し、「看護学概論」を担当。H27年3月まで。(27)
					専	教授	中馬 成子 (55)	平成27年4月	早期体験演習 看護学概論※ 看護理論 看護過程演習 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 卒業研究Ⅱ 成人看護学概論※ ヘルスアセスメント 成人看護学援助論Ⅰ (急性期・周手術期) 成人看護学援助論Ⅱ (慢性期・回復期・終末期) 成人看護学実習Ⅰ (急性期・周手術期) 成人看護学実習Ⅱ (慢性期・回復期・終末期) 統合看護学実習	平成26年6月 三毛美恵子准教授、疾病により退職。平成27年度より後任に中馬成子教授を新規採用。 平成26年9月教員審査済み。(27) 基礎看護学技術演習Ⅰ、同Ⅱ、同Ⅲについては、吉村雅代教授が追加担当するため支障なし。(27) 平成28年4月 当該科目の教育充実のため、担当科目を追加 平成27年11月教員審査済(28)
					兼任	講師	岡一和美 (44)	平成26年6月	早期体験演習 基礎看護学実習Ⅰ	平成26年5月末 三毛美恵子准教授、疾病により療養のため、6月より岡和美兼任講師を新規採用し、「早期体験演習」「基礎看護学実習Ⅰ」を担当。H27年3月まで。(27)
					兼任	講師	若林一たけ子 (66)	平成26年9月	看護理論	平成26年6月 三毛美恵子准教授が退職のため、9月より若林たけ子兼任講師を新規採用し、「看護理論」を担当。H27年3月まで。(27)
					専	教授	若林 たけ子 (65) (高)	平成27年4月	早期体験演習 看護学概論※ 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 卒業研究Ⅱ	平成27年4月 教育指導体制充実のため、若林たけ子教授を新規採用。平成27年1月教員審査済み。(27)
					兼任	講師	國井一由加利 (48)	平成26年10月	基礎看護学実習Ⅰ	平成26年6月 三毛美恵子准教授が退職のため、9月より國井由加利兼任講師を新規採用し、「基礎看護学実習Ⅰ」を担当。H27年3月まで。(27)

設 置 時 の 計 画					変 更 状 況					備 考
専任・ 兼任・ 兼任 の別	職 名	氏 名 (年 齢)	就任予定 年月	担当授業科目名	専任・ 兼任・ 兼任 の別	職 名	氏 名 (年 齢)	就任予定 年月	担当授業科目名	
					兼任	講師	立川—茂樹 (40)	平成26年10月	基礎看護学実習Ⅰ ヘルスアセスメント	平成26年6月 三毛美恵子准教授が退職のため、9月より立川茂樹兼任講師を新規採用し、「基礎看護学実習Ⅰ」を担当。 H27年3月まで。(27) 平成27年3月 藤原尚子准教授が自己都合により退職のため、平成27年度より「ヘルスアセスメント」を追加担当。(27) 平成28年4月 専任講師に職位変更（後に記載）(28)
専	准教授	藤原 尚子 (52)	平成26年4月	ヘルスアセスメント 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 成人看護学援助論Ⅰ (急性期・周手術期) 成人看護学援助論Ⅱ (慢性期・回復期・終末期) 成人看護学実習Ⅰ (急性期・周手術期) 成人看護学実習Ⅱ (慢性期・回復期・終末期) 卒業研究Ⅱ			後任未定			平成27年3月 藤原尚子准教授、自己都合により退職。後任については平成27年7月教員審査予定。平成27年度開講の「ヘルスアセスメント」は立川茂樹兼任講師が担当。「基礎看護学実習Ⅰ」「基礎看護学実習Ⅱ」は若林たけ子教授が就任したため支障なし(27)
					兼任 専	講師	梶村 郁子 (39)	平成28年4月	早期体験演習 ヘルスアセスメント 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 成人看護学援助論Ⅰ 成人看護学援助論Ⅱ (慢性期・回復期・終末期) 成人看護学実習Ⅰ (急性期・周手術期) 成人看護学実習Ⅱ (慢性期・回復期・終末期) 統合看護学実習 卒業研究Ⅱ	平成28年4月 新規採用 平成28年1月教員審査済(28)
専	准教授	岡本 響子 (55)	平成26年4月	早期体験演習 看護学概論※ 基礎看護学実習Ⅱ 精神看護学実習 統合看護学実習 卒業研究Ⅱ			後任未定			平成28年3月 岡本響子准教授が自己都合により退職。 「早期体験演習」「基礎看護学実習Ⅱ」は担当者が多数いるため支障なし。 「精神看護学援助論」「精神看護学実習」は東中須恵子教授が担当しているため支障なし。「看護学概論」は中馬成子教授と若林たけ子教授が担当するため支障はない(28)
専	准教授	尾ノ井 美由紀 (58)	平成28年4月	基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 卒業研究Ⅱ 公衆衛生看護学概論 公衆衛生看護学 公衆衛生看護学 実習Ⅱ（学校保健） 公衆衛生看護学 実習Ⅲ（産業保健） 公衆衛生看護学 診断演習	専	教授	新谷 奈苗 (53)	平成28年4月	早期体験演習 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 統合看護学実習 卒業研究Ⅱ 公衆衛生看護学 方法論Ⅰ 公衆衛生看護学 方法論Ⅱ 公衆衛生看護学 Ⅰ（地域活動） 公衆衛生看護学 Ⅲ（産業保険） 公衆衛生看護学 実習Ⅰ（地域活動） 公衆衛生看護学 実習Ⅱ（学校保健） 公衆衛生看護学 実習Ⅲ（産業保健） 公衆衛生看護学 診断演習	平成28年4月 尾ノ井美由紀准教授が自己都合により就任辞退 新規採用。 平成28年1月教員審査済(28)
					兼任	講師	森山—浩司 (43)	平成28年4月	公衆衛生看護学概論	平成28年4月 尾ノ井美由紀准教授が自己都合により就任辞退のため担当者の変更(28)

設 置 時 の 計 画					変 更 状 況					備 考
専任・ 兼任・ 兼任 の別	職 名	氏 名 (年 齢)	就任予定 年月	担当授業科目名	専任・ 兼任・ 兼任 の別	職 名	氏 名 (年 齢)	就任予定 年月	担当授業科目名	
兼任	講師	尾ノ井 美由紀 (56)	平成26年10月	基礎看護学実習Ⅰ 公衆衛生看護学 方法論Ⅰ※ 公衆衛生看護学 実習Ⅰ（地域活動） 公衆衛生看護学 実習Ⅱ（学校保健） 公衆衛生看護学 実習Ⅲ（産業保健） 公衆衛生看護学 診断演習	専	准教授	芝田 ゆかり (57)	平成29年4月	公衆衛生看護学概論 早期体験演習 基礎看護学実習Ⅱ 公衆衛生看護学方法論Ⅰ 公衆衛生看護学方法論Ⅱ 公衆衛生看護学実習Ⅰ （地域活動） 公衆衛生看護学実習Ⅱ （学校保健） 公衆衛生看護学実習Ⅲ （産業保健） 公衆衛生看護学診断演習 卒業研究Ⅱ 統合看護学実習	平成29年4月 新規採用。 平成29年1月教員審査済(29)
					兼任	講師	尾ノ井—美由紀 (57)	平成27年4月	基礎看護学実習Ⅰ	平成26年4月 現職大学の校務の都合により就任年 度を変更。 H26年度開講科目「基礎看護学実習 Ⅰ」は、大内田靖子兼任講師(平成27 年度から助手)が当該科目を追加担当 するため支障なし。(26)
					専	講師	立川 茂樹 (41)	平成28年4月	早期体験演習 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ ヘルスアセスメント 公衆衛生看護学 方法論Ⅰ 公衆衛生看護学 方法論Ⅱ 公衆衛生看護学 Ⅰ（地域活動） 公衆衛生看護学 Ⅲ（産業保健） 公衆衛生看護学 実習Ⅰ（地域活動） 公衆衛生看護学 実習Ⅱ（学校保健） 公衆衛生看護学 実習Ⅲ（産業保健） 公衆衛生看護学 診断演習 統合看護学実習 卒業研究Ⅱ	平成28年4月 新規採用。 平成28年1月教員審査済(28)
専	准教授	嶋田 理博 (47)	平成26年4月	情報機器の操作 キャリアデザインⅡ キャリア ディベロップメントⅡ キャリア スキルアップⅠ キャリア スキルアップⅡ						
専	講師	北島 洋子 (48)	平成26年4月	早期体験演習 基礎看護技術演習Ⅰ 基礎看護技術演習Ⅱ 基礎看護技術演習Ⅲ 看護過程演習 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 卒業研究Ⅱ						

設 置 時 の 計 画					変 更 状 況					備 考
専任・兼任・兼任の別	職 名	氏 名 (年 齢)	就任予定 年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職 名	氏 名 (年 齢)	就任予定 年月	担当授業科目名	
専	講師	廣川 聖子 (50)	平成27年4月	基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 成人看護学援助論Ⅰ (急性期・周手術期) 成人看護学実習Ⅰ (急性期・周手術期) 成人看護学実習Ⅱ (慢性期・回復期・終末期) 家族援助論 統合看護学実習 卒業研究Ⅱ			廣川—聖子 (49)	平成26年4月	基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 成人看護学援助論Ⅰ (急性期・周手術期) 成人看護学実習Ⅰ (急性期・周手術期) 成人看護学実習Ⅱ (慢性期・回復期・終末期) 家族援助論 統合看護学実習 卒業研究Ⅱ	平成26年4月 教育指導体制充実のため、就任年度を変更。(26)
					兼任	講師	廣川—聖子 (51)	平成28年4月	家族援助論	平成28年3月 廣川聖子講師、自己都合により退職— 平成28年4月 兼任講師として科目担当(28)
					専	講師	川口 ちづる (46)	平成28年4月	家族援助論	平成28年3月廣川聖子講師の自己都合による退職ののち平成28年11月の教員審査で科目担当可と判定(29)
					専	准教授	松浦 純平 (42)	平成28年4月	早期体験演習 ヘルスアセスメント 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 成人看護学援助論Ⅰ (急性期・周手術期) 成人看護学実習Ⅰ (急性期・周手術期) 成人看護学実習Ⅱ (慢性期・回復期・終末期) 統合看護学実習 卒業研究Ⅱ	平成28年4月 後任として新規採用 平成28年1月教員審査済(28) 平成29年1月専任教員採用等変更書を提出し准教授に昇格(29)
兼任	講師	廣川 聖子 (49)	平成26年10月	基礎看護学実習Ⅰ						
専	講師	大山 真貴子 (47)	平成26年4月	早期体験演習 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 成人看護学援助論Ⅱ (慢性期・回復期・終末期) 成人看護学実習Ⅰ (急性期・周手術期) 成人看護学実習Ⅱ (慢性期・回復期・終末期) 統合看護学実習 卒業研究Ⅱ			後任未定			平成28年3月 大山真貴子講師が自己都合により退職(28) 「後任未定」平成28年6月変更書提出予定(28) 「早期体験演習」「基礎看護学実習Ⅰ」「基礎看護学実習Ⅱ」は担当者が多数いるため支障なし。 「成人看護学援助論Ⅱ(慢性期・回復期・終末期)」は梶村郁子講師が就任し担当する。「成人看護学実習Ⅰ(急性期・周手術期)」「成人看護学実習Ⅱ(慢性期・回復期・終末期)」は松浦純平講師が就任し梶村郁子講師と共に担当するため支障なし。(28)
専	講師	田中 和奈 (41)	平成27年4月	老年看護学援助論 老年看護学実習Ⅰ 老年看護学実習Ⅱ 在宅看護学実習 国際保健医療看護論 国際保健医療看護演習 統合看護学実習 卒業研究Ⅱ	専	准教授	田中 和奈 (42)	平成28年4月	早期体験演習 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 老年看護学援助論 老年看護学実習Ⅰ 老年看護学実習Ⅱ 在宅看護学実習 国際保健医療看護論 国際保健医療看護演習 統合看護学実習 卒業研究Ⅱ	平成28年4月 准教授に昇格 同時に担当科目を追加 平成27年11月教員審査済(28)
専	講師	西田 絵美 (48)	平成26年4月	母性看護学援助論 母性看護学実習 卒業研究Ⅱ ウイメンズヘルス学 助産診断・技術学Ⅰ 助産診断・技術学Ⅱ 助産診断・技術学演習 助産診断・技術学実習Ⅰ 助産診断・技術学実習Ⅱ 助産診断・技術学実習Ⅲ 助産診断・技術学実習Ⅳ 地域母子保健	専	准教授	美甘 祥子 (44)	平成29年4月	母性看護学援助論 母性看護学実習 卒業研究Ⅱ ウイメンズヘルス学 助産診断・技術学Ⅰ 助産診断・技術学Ⅱ 助産診・断技術学Ⅲ 助産診断・技術学演習 助産診断・技術学実習Ⅰ 助産診断・技術学実習Ⅱ 助産診断・技術学実習Ⅲ 助産診断・技術学実習Ⅳ 助産管理論 統合看護学実習 早期体験演習	平成28年9月西田 絵美講師 自己都合により退職ののち平成29年1月の教員審査で美甘准教授を専任補充。適格、担当科目可と判定された。(29)

設 置 時 の 計 画					変 更 状 況					備 考
専任・兼任・兼任の別	職 名	氏 名 (年 齢)	就任予定 年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職 名	氏 名 (年 齢)	就任予定 年月	担当授業科目名	
専	助教	肥後 雅子 (37)	平成28年4月	基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 成人看護学援助論Ⅰ (急性期・周手術期) 成人看護学援助論Ⅱ (慢性期・回復期・終末期) 成人看護学実習Ⅰ (急性期・周手術期) 成人看護学実習Ⅱ (慢性期・回復期・終末期) 統合看護学実習 卒業研究Ⅱ			後任未定			平成28年4月 肥後雅子助教が自己都合により就任 辞退(28) 「基礎看護学実習Ⅰ」「基礎看護学実 習Ⅱ」は前年度と同対応するため支 障なし(28) 「成人看護学援助論Ⅱ(慢性期・回復 期・終末期)」は、坊垣友美教授の 他、就任した梶村郁子講師及び兼任 講師2名と共同で担当のため支障な し。(28) 「成人看護学援助論Ⅰ(急性期、周 手術期)」は、成人看護学援助論Ⅱ に加え、就任した松浦純平講師も加 わり共同で担当のため支障なし。 (28)
					兼 任	講 師		平成28年4月	成人看護学援助論Ⅰ (急性期・周手術期) 成人看護学援助論Ⅱ (慢性期・回復期・終末期) 成人看護学実習Ⅰ (急性期・周手術期) 成人看護学実習Ⅱ (慢性期・回復期・終末期)	平成28年4月 担当者を追加(28)
					兼 任	講 師		平成28年4月	成人看護学援助論Ⅰ (急性期・周手術期) 成人看護学援助論Ⅱ (慢性期・回復期・終末期) 成人看護学実習Ⅰ (急性期・周手術期) 成人看護学実習Ⅱ (慢性期・回復期・終末期)	平成28年4月 担当者を追加(28)
					専	講 師		平成28年9月	基礎看護学実習Ⅰ 成人看護学援助論Ⅰ (急性期・周手術期) 成人看護学実習Ⅰ (急性期・周手術期) 成人看護学実習Ⅱ (慢性期・回復期・終末期) 基礎看護学実習Ⅱ 早期体験演習 成人看護学援助論Ⅱ (慢性期・回復期・終末期) ヘルスアセスメント 統合看護学実習 卒業研究Ⅱ	平成28年4月肥後雅子助教が自己都合 により就任辞退(28) 平成28年7月の教員審査で大山末美講 師を専任補充。適格、担当科目可と 判定された。(29)
兼 任	講 師	肥後 雅子 (36)	平成26年10月	基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 成人看護学援助論Ⅰ (急性期・周手術期)	兼 任	講 師	肥後—雅子 (36)	平成27年4月	基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 成人看護学援助論Ⅰ (急性期・周手術期)	平成26年4月 自己都合により就任年度を変更。 平成26年度開講科目「基礎看護学実 習Ⅰ」は、山田満智子兼任講師が当 該科目を追加担当するため支障な し。(26) 平成27年4月 自己の都合により就任年度を変更。 H27年度開講科目「基礎看護学実習 Ⅰ」は平成26年度に兼任講師5名を追 加配置しているため支障なし。 「基礎看護学実習Ⅱ」は助手2名を新 規採用したため支障なし。 「成人看護学援助論Ⅰ(急性期、周 手術期)」は、坊垣友美教授、廣川 聖子講師、天野直子兼任講師と共同 で担当のため支障なし。(27)
専	助教	岡 居久代 (50)	平成26年4月	早期体験演習 母性看護学援助論 母性看護学実習 統合看護学実習 卒業研究Ⅱ 助産診断・技術学Ⅱ 助産診断・技術学Ⅲ 助産診断・技術学演習 助産診断・技術学実習Ⅰ 助産診断・技術学実習Ⅱ 助産診断・技術学実習Ⅲ 助産診断・技術学実習Ⅳ						
専	助教	出原 弥和 (43)	平成26年4月	早期体験演習 基礎看護学実習Ⅰ 母性看護学援助論 母性看護学実習 統合看護学実習 卒業研究Ⅱ 助産診断・技術学Ⅰ 助産診断・技術学Ⅲ 助産診断・技術学演習 助産診断・技術学実習Ⅰ 助産診断・技術学実習Ⅱ 助産診断・技術学実習Ⅲ 助産診断・技術学実習Ⅳ	専	講 師	出原—弥和 (44)	平成27年4月	早期体験演習 基礎看護学実習Ⅰ 母性看護学援助論 母性看護学実習 統合看護学実習 卒業研究Ⅱ 助産診断・技術学Ⅰ 助産診断・技術学Ⅲ 助産診断・技術学演習 助産診断・技術学実習Ⅰ 助産診断・技術学実習Ⅱ 助産診断・技術学実習Ⅲ 助産診断・技術学実習Ⅳ	平成27年4月 教育指導体制充実のため、出原弥和 助教を講師に見格。平成27年1月教員 審査済み。(27) 平成28年3月 出原弥和講師、自己都合により退職 (28) 後任については平成28年6月変更書提 出予定 「早期体験演習」「基礎看護学実習 Ⅰ」は担当者が多数いるため支障な し(28) 「母性看護学援助論」「母性看護学 実習」「助産診断・技術学Ⅰ」「助 産診断・技術学Ⅱ」は助手2名を採用 したため支障なし(28)

設 置 時 の 計 画					変 更 状 況					備 考
専任・ 兼任・ 兼任の別	職 名	氏 名 (年 齢)	就任予定 年月	担当授業科目名	専任・ 兼任・ 兼任の別	職 名	氏 名 (年 齢)	就任予定 年月	担当授業科目名	
専	助教	大濱 恵美子 (62) (高)	平成26年4月	早期体験演習 基礎看護学実習Ⅱ 在宅看護学援助論 在宅看護学実習 統合看護学実習 卒業研究Ⅱ			後任未定			平成29年3月大浜恵美子助教が自己都合により退職(29) 「早期体験演習」「基礎看護学実習Ⅱ」「在宅看護学援助論」「在宅看護学実習」「統合看護学実習」「卒業研究Ⅱ」は担当者が多数いるため支障なし(29)
専	助教	高橋 晶 (38)	平成26年4月	早期体験演習 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 卒業研究Ⅱ 公衆衛生看護学方法論Ⅱ 公衆衛生看護学Ⅰ（地域活動） 公衆衛生看護学実習Ⅰ（地域活動） 公衆衛生看護学実習Ⅱ（学校保健） 公衆衛生看護学実習Ⅲ（産業保健）			後任未定			平成28年3月高橋晶助教が自己都合により退職(28) 「早期体験演習」「基礎看護学実習Ⅰ」「基礎看護学実習Ⅱ」は担当者が多数いるため支障なし(28) 「公衆衛生看護学方法論Ⅱ」「公衆衛生看護学Ⅰ（地域活動）」は新谷奈苗教授、立川茂樹講師、井上葉子助教が就任し、助手も新規採用したため支障なし(28)
専	助教	上山 千恵子 (39)	平成26年4月	早期体験演習 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ	兼任	講師	上山 千恵子 (39)	平成26年4月	早期体験演習 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 基礎看護技術演習Ⅰ	平成26年4月自己都合により専任助教として就任辞退し、兼任講師として就任。また榊裕美兼任講師の就任年度変更のため、平成26年度開講科目「基礎看護技術演習Ⅰ」を追加担当する。(26)
					専	助手	上山 千恵子 (40)	平成27年4月		平成27年4月教育指導体制充実のため、助手に採用。専任助手として当該科目を担当。(27) 平成28年3月自己都合により退職(28) 新たに助手を採用したため、支障なし(28)
					専	講師	川口 ちづる (45)	平成28年4月	早期体験演習 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 老年看護学援助論 老年看護学実習Ⅰ 老年看護学実習Ⅱ 在宅看護学援助論 在宅看護学実習 統合看護学実習 卒業研究Ⅱ	平成28年4月新規採用(28) 平成28年1月教員審査済(28)
兼任	教授	井上 眞理子 (66)	平成26年10月	社会学	兼任	講師	井上 眞理子 (69)	平成29年10月	社会学	平成29年3月井上眞理子兼任教授が退職。兼任講師として左記科目を担当することから授業に支障なし。(29)
兼任	教授	淡野 明彦 (67)	平成26年10月	地理学	兼任	講師	淡野 明彦 (67)	平成26年10月	地理学	平成26年4月他学部就任予定がなくなったため(26)
					兼任	講師	日下 耕三 (68)	平成28年4月	地理学	平成28年3月自己都合により淡野明彦兼任講師が退職(28) 平成28年4月担当者変更(28)
兼任	教授	根岸 章 (48)	平成26年4月	数学の世界						
兼任	教授	向井 厚志 (45)	平成26年4月	物理と地学の基礎 実験と科学 生活と環境※ シミュレーションの世界	兼任	教授	大原 荘司 (68)	平成27年4月	物理と地学の基礎 実験と科学 生活と環境※	平成27年3月自己の都合により向井厚志兼任教授が退職。担当科目は大原荘司兼任教授が担当のため支障なし。「シミュレーションの世界」は、杵崎のり子兼任教授が追加担当するため支障なし。(27) 平成29年3月任期満了により大原荘司兼任教授が退職。左記科目については下記参照(29)
					兼任	講師	大原 荘司 (70)	平成29年4月	物理と地学の基礎 実験と科学 生活と環境※	平成29年3月任期満了により大原荘司兼任教授が退職。担当科目は大原荘司兼任講師が担当の為授業に支障なし。(29)
兼任	教授	岡部 修一 (55)	平成26年4月	健康スポーツ（実技） スポーツ実技Ⅰ スポーツ実技Ⅱ	兼任	講師	岡部 修一 (58)	平成29年4月	健康スポーツ（実技） 健康スポーツ（理論） スポーツ実技Ⅰ スポーツ実技Ⅱ	平成29年3月任期満了により岡部修一兼任教授が、退職。兼任講師として左記科目を担当することから授業に支障なし。(29)
兼任	教授	桑原 祐子 (57)	平成26年4月	奈良学						
兼任	教授	河合 和男 (63)	平成26年10月	国際経済事情						
兼任	教授	杵崎 のり子 (54)	平成26年4月	データの世界	兼任	教授	杵崎 のり子 (55)	平成26年4月	データの世界 シミュレーションの世界	平成27年4月向井厚志兼任教授退職のため、「シミュレーションの世界」を追加担当する。(27)
兼任	准教授	宮崎(竹田) 治美 (44)	平成26年4月	中国語基礎Ⅰ 中国語基礎Ⅱ 中国語会話						

設 置 時 の 計 画					変 更 状 況					備 考
専任・兼任・兼任の別	職 名	氏 名 (年 齢)	就任予定 年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職 名	氏 名 (年 齢)	就任予定 年月	担当授業科目名	
兼任	准教授	山本 美紀 (45)	平成26年10月	音楽の世界	兼任	教授	山本 美紀 (47)	平成28年4月	音楽の世界	平成28年4月 昇格により職位変更(28)
兼任	准教授	阪元 勇輝 (54)	平成26年4月	環境化学の基礎 生活と環境※	兼任	教授	阪元 勇輝 (56)	平成28年4月	環境化学の基礎 生活と環境※	平成28年4月養育指導体制充実のため 阪元勇輝兼任准教授が兼任教授に昇格し左記科目を担当。(28) 平成28年度設置計画履行状況報告から記入漏れの為追記(29)
					兼任	講師	阪元 勇輝 (57)	平成29年10月	環境化学の基礎 生活と環境※	平成29年3月阪元勇輝兼任教授が退職。 兼任講師として左記科目を担当することから授業に支障なし。教学上の効果を考慮し、配当学期を変更(29)
兼任	准教授	武谷 嘉之 (44)	平成26年10月	共生と日本社会						
兼任	講師	表 弘一郎 (43)	平成26年4月	哲学	兼任	講師	表 弘一郎 (43)	平成26年4月	哲学	平成26年4月 他学部就任予定がなくなったため(26)
兼任	講師	西川 弘展 (42)	平成26年4月	社会科学の基礎	兼任	准教授	武谷 嘉之 (47)	平成29年4月	社会科学の基礎	平成29年3月 西川弘展兼任講師が退職。武谷嘉之兼任准教授が担当するので授業に支障なし。(29)
兼任	講師	羽太 広海 (45)	平成26年10月	C G の基礎と演習	兼任	講師	大場 六夫 (59)	平成29年4月	C G の基礎と演習	平成29年3月自己都合により兼任の羽太広海講師が退職。後任に大場六夫兼任講師を採用したため授業に支障なし。(29)
兼任	助教	酒井(阿尾) あすか (36)	平成26年10月	文学	兼任	講師	酒井(阿尾) あすか (38)	平成28年4月	文学	平成28年4月 昇格により職位変更(28)
兼任	講師	小山 次郎 (59)	平成26年4月	英語Ⅰ 英語Ⅱ						
兼任	講師	武田 亜希子 (41)	平成26年4月	英会話Ⅰ 英会話Ⅱ	兼任	講師	マッセルホワイト・リンダ・ダイアン (60)	平成26年9月	英会話Ⅱ	平成26年9月 本務の都合により武田亜希子兼任講師が退職。後期担当科目「英会話Ⅱ」にマッセルホワイト・リンダ・ダイアン兼任講師を採用したため担当科目に支障なし。H27年3月まで。(27)
					兼任	講師	盛田 有貴 (25)	平成27年4月	英会話Ⅰ 英会話Ⅱ	平成26年9月 本務の都合により武田亜希子兼任講師が退職。後任に盛田有貴兼任講師を採用したため担当科目に支障なし。(27)
兼任	講師	鳥谷 善史 (49)	平成26年4月	日本語Ⅰ 日本語Ⅱ 日本語表現Ⅰ 日本語表現Ⅱ						
兼任	講師	濱崎 雅孝 (43)	平成26年4月	倫理学 情報倫理とセキュリティ						
兼任	講師	野口 智草 (33)	平成26年4月	心理学						
兼任	講師	紙村 徹 (66)	平成26年10月	文化人類学						
兼任	講師	北村 義博 (58)	平成26年4月	感性・イメージ表現 文化芸術交流論※ 文化芸術交流演習 キャリアデザインⅡ キャリア ディベロップメントⅡ キャリア スキルアップⅠ キャリア スキルアップⅡ 国際保健医療看護演習	兼任	講師	北村 義博 (59)	平成26年4月	感性・イメージ表現 文化芸術交流論※ 文化芸術交流演習 キャリア スキルアップⅠ キャリア スキルアップⅡ 国際保健医療看護演習	平成27年4月 科目分担の見直しにより、「キャリアデザインⅡ」「キャリアディベロップメントⅡ」を新規採用した今井隆太郎兼任講師が担当する。(27)
					兼任	講師	今井 隆太郎 (41)	平成27年4月	キャリアデザインⅡ キャリア ディベロップメントⅡ キャリア スキルアップⅠ	平成28年4月 科目分担の見直し担当者変更(28)
兼任	講師	渡邊 和行 (61)	平成26年10月	外国史						
兼任	講師	小林 直樹 (42)	平成26年4月	日本国憲法 人権論						
兼任	講師	谷口 直子 (53)	平成26年4月	ボランティア活動						
兼任	講師	森田 良成 (38)	平成26年10月	文化コミュニケーション						
兼任	講師	石田 秀朗 (52)	平成26年4月	キャリアデザインⅠ キャリアデザインⅡ キャリア ディベロップメントⅡ キャリア スキルアップⅠ キャリア スキルアップⅡ	兼任	講師	石田 秀朗 (53)	平成26年4月	キャリアデザインⅡ キャリア ディベロップメントⅡ キャリア スキルアップⅠ キャリア スキルアップⅡ	平成27年4月 科目分担の見直しにより、「キャリアデザインⅠ」を新たに採用した藤原静兼任講師が担当する。(27)

設 置 時 の 計 画					変 更 状 況					備 考
専任・兼任・兼任の別	職 名	氏 名 (年 齢)	就任予定 年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職 名	氏 名 (年 齢)	就任予定 年月	担当授業科目名	
兼任	講師	田場 真理 (41)	平成26年4月	早期体験演習 基礎看護技術演習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅰ	専任	助手	田場 真理 (42)	平成27年4月	早期体験演習 基礎看護技術演習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅰ	平成26年4月 自己都合により就任年度を変更。 平成27年度から専任助手として当該科目を担当。 平成26年度開講科目は瀬山由美子兼任講師が就任し担当するため支障なし。(26) 平成27年4月教育指導体制充実のため、助手に採用。専任助手として当該科目を担当。(27)
兼任	講師	大内田 靖子 (41)	平成26年4月	早期体験演習	兼任	講師	大内田 靖子 (41)	平成26年4月	早期体験演習 基礎看護学実習Ⅰ	平成26年4月 尾ノ井美由紀兼任講師の就任年度変更のため「基礎看護学実習Ⅰ」を追加担当する。 平成27年度からは専任助手として当該科目を担当する。(26) 平成27年4月 自己の都合により大内田靖子兼任講師が就任辞退。H27年度開講科目「早期体験演習」「基礎看護学実習Ⅰ」は、後任として上山千恵子助手が就任したため支障なし。(27)
					専任	助手	大内田 靖子 (42)	平成27年4月	早期体験演習 基礎看護学実習Ⅰ	
兼任	講師	藤尾 順子 (54)	平成26年4月	早期体験演習 基礎看護学実習Ⅰ	専任	助手	藤尾 順子 (55)	平成27年4月	早期体験演習 基礎看護学実習Ⅰ	平成26年4月 自己都合により就任年度を変更。 平成27年度から専任助手として当該科目を担当する。 平成26年度開講科目は新道理香兼任講師が就任し担当するため支障なし。(26) 平成27年4月 自己の都合により藤尾順子兼任講師が就任辞退。H27年度開講科目「早期体験演習」「基礎看護学実習Ⅰ」は、若林たけ子教授が就任したため支障なし。(27)
					専任	助手	高橋 寿奈 (48)	平成29年4月		平成29年4月教育指導体制充実のため、助手に高橋寿奈氏を採用。(29)
兼任	講師	松村 和美 (42)	平成26年4月	早期体験演習 基礎看護学実習Ⅰ 成人看護学実習Ⅰ (急性期・周手術期) 老年看護学実習Ⅰ 老年看護学実習Ⅱ 在宅看護学実習						
兼任	講師	山田 満智子 (61)	平成26年4月	早期体験演習 在宅看護学実習 統合看護学実習 助産診断・技術学実習Ⅰ 助産診断・技術学実習Ⅱ 助産診断・技術学実習Ⅲ 助産診断・技術学実習Ⅳ	兼任	講師	山田 満智子 (61)	平成26年4月	早期体験演習 在宅看護学実習 統合看護学実習 助産診断・技術学実習Ⅰ 助産診断・技術学実習Ⅱ 助産診断・技術学実習Ⅲ 助産診断・技術学実習Ⅳ 基礎看護学実習Ⅰ	平成26年4月 肥後雅子兼任講師の就任年度変更のため、「基礎看護学実習Ⅰ」を追加担当する。(26)
兼任	講師	播金 ヤスミ (58)	平成26年4月	早期体験演習 在宅看護学実習 統合看護学実習 助産診断・技術学実習Ⅰ 助産診断・技術学実習Ⅱ 助産診断・技術学実習Ⅲ 助産診断・技術学実習Ⅳ	兼任	講師	播金 ヤスミ (59)	平成27年4月	早期体験演習 在宅看護学実習 統合看護学実習 助産診断・技術学実習Ⅰ 助産診断・技術学実習Ⅱ 助産診断・技術学実習Ⅲ 助産診断・技術学実習Ⅳ	平成26年4月 現職である看護専門学校の職務の都合により就任年度を変更。 平成26年度開講科目「早期体験演習」は、山本和恵兼任講師が就任し担当するため支障なし。(26)
					専	助手	播金 ヤスミ (61)	平成29年4月		平成29年3月 兼任の播金ヤスミ講師が退職。 平成29年3月播金ヤスミ氏を専任助手として採用(29)
兼任	講師	宮田 英子 (64)	平成26年4月	早期体験演習 小児看護学実習 在宅看護学実習 統合看護学実習 助産診断・技術学実習Ⅰ 助産診断・技術学実習Ⅱ 助産診断・技術学実習Ⅲ 助産診断・技術学実習Ⅳ	兼任	講師	宮田 英子 (65)	平成26年4月	早期体験演習 小児看護学実習 在宅看護学実習 統合看護学実習 助産診断・技術学実習Ⅰ 助産診断・技術学実習Ⅱ 助産診断・技術学実習Ⅲ 助産診断・技術学実習Ⅳ 基礎看護学実習Ⅰ	平成26年4月 柳瀬由利子兼任講師の就任年度変更のため「基礎看護学実習Ⅰ」を追加担当する。(26) 平成28年4月 専任助手に採用(28)
					兼任	講師	宮田 英子 (67)	平成29年6月	助産診断・技術学実習Ⅰ 助産診断・技術学実習Ⅱ 助産診断・技術学実習Ⅲ 助産診断・技術学実習Ⅳ	平成29年3月宮田英子氏は専任助手を辞任し、平成29年4月より非常勤講師として採用(29)
兼任	講師	前田 裕子 (57)	平成26年4月	人体構造学Ⅰ 人体構造学Ⅱ 人体機能学Ⅰ 人体機能学Ⅱ						

設 置 時 の 計 画					変 更 状 況					備 考
専任・兼任・兼任の別	職 名	氏 名 (年 齢)	就任予定 年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職 名	氏 名 (年 齢)	就任予定 年月	担当授業科目名	
兼任	講師	彭 徳子 (44)	平成26年4月	生化学 免疫学	兼任	講師	大西 武雄 (70)	平成27年4月	生化学 遺伝学	平成26年9月 時間不都合により彭徳子兼任講師が退職。該当科目については後任に大西武雄兼任講師、今北菜津子兼任講師、勝井則明兼任講師を採用したため支障なし。(27)
				微生物学	兼任	講師	今北 菜津子 (32)	平成27年4月	免疫学	
				遺伝学	兼任	講師	勝井 則明 (63)	平成26年9月	微生物学	
兼任	講師	山本 育由 (67)	平成26年10月	薬理学	兼任	講師	五味田 裕 (72)	平成29年9月	薬理学	平成29年3月組織調整のうえ教員交代をお願いしました。(29)
兼任	講師	関川 進 (66)	平成26年10月	病理学	兼任	講師	荒木 博陽 (65)	平成29年9月	病理学	平成29年3月関川先生、自己都合で退職。(29)
兼任	講師	河合 洋見 (60)	平成26年4月	栄養と食生活						
兼任	講師	石川 秀雄 (57)	平成27年4月	疾病治療論Ⅰ※ 疾病治療論Ⅱ※	兼任	講師	赤井 靖宏 (52)	平成27年4月	疾病治療論Ⅰ※ 疾病治療論Ⅱ※	平成27年4月 時間不都合により石川秀雄兼任講師が就任辞退。該当科目については後任に赤井靖宏兼任講師を採用したため支障なし。(27)
兼任	講師	金 東実 (62)	平成27年4月	疾病治療論Ⅰ※ 疾病治療論Ⅱ※	兼任	講師	岡田 定規 (37)	平成27年4月	疾病治療論Ⅰ※ 疾病治療論Ⅱ※	平成27年4月 時間不都合により金東実兼任講師が就任辞退。該当科目については後任に岡田定規兼任講師を採用したため支障なし。(27)
					兼任	講師	黒川 紳一郎 (57)	平成27年9月	疾病治療論Ⅱ※	平成27年4月 教育指導体制充実のため新規採用。(27)
					兼任	講師	阪井 利幸 (62)	平成27年9月	疾病治療論Ⅱ※	平成27年4月 教育指導体制充実のため新規採用。(27)
兼任	講師	森山 明宏 (50)	平成27年10月	疾病治療論Ⅱ※						
兼任	講師	森村 昌史 (56)	平成27年4月	疾病治療論Ⅰ※ 疾病治療論Ⅱ※	兼任	講師	平野 文男 (55)	平成27年4月	疾病治療論Ⅰ※ 疾病治療論Ⅱ※ 保健学Ⅰ（公衆衛生） 保健学Ⅱ（疫学） 保健統計 チーム医療演習	平成27年4月 時間不都合により森村昌史兼任講師が就任辞退。該当科目については後任に平野文男兼任講師を採用したため支障なし。(27) 平成28年4月 「保健学Ⅰ（公衆衛生）」「保健学Ⅱ（疫学）」「保健統計」「チーム医療演習」を追加担当(28)
					兼任	講師	田中 邦彦 (48)	平成27年9月	疾病治療論Ⅱ※	平成27年4月 教育指導体制充実のため新規採用。(27)
兼任	講師	北野 博子 (65)	平成27年4月	保健学Ⅰ（公衆衛生） 保健学Ⅱ（疫学） 保健統計	兼任	講師	北野博子 (66)	平成28年4月	保健学Ⅰ（公衆衛生） 保健学Ⅱ（疫学） 保健統計	平成27年4月 現職の都合により就任年度を変更。H27年度開講科目「保健学Ⅰ（公衆衛生）」「保健学Ⅱ（疫学）」は、辻下守弘兼任講師が当該科目を追加担当するため支障なし。(27) 平成28年4月 現職の都合により就任を辞退(28) 「保健統計」は平野文男兼任講師が担当するため支障なし(28)
兼任	講師	相原 由花 (51)	平成26年4月	キャリアデザインⅡ キャリア ディベロップメントⅡ ヘルス プロモーション論※ キャリア スキルアップⅠ キャリア スキルアップⅡ	兼任	講師	相原 由花 (53)	平成28年4月	キャリア ディベロップメントⅡ ヘルス プロモーション論※ キャリア スキルアップⅠ キャリア スキルアップⅡ	平成28年4月 科目分担の見直しにより、「キャリアデザインⅡ」を新たに採用した兼任講師が担当する(28)
					兼任	講師	柴田 由紀子 (46)	平成28年4月	キャリアデザインⅡ	
兼任	講師	吉備 登 (66)	平成27年4月	ヘルス プロモーション論※	兼任	講師	伊藤 健一 (43)	平成29年4月	ヘルス プロモーション論※	平成29年3月、兼任の吉備昇講師が現職の都合により退職(29)
兼任	講師	田村 祐樹 (52)	平成27年4月	ヘルス プロモーション論※						平成29年3月、兼任の田村祐樹講師現職の都合により退職(29)
兼任	講師	富永 堯史 (33)	平成27年4月	社会福祉学						
兼任	講師	瀧本 隆子 (44)	平成27年4月	医療福祉関係法規 保健医療福祉行政論	兼任	講師	瀧本 茂 (42)	平成28年4月	医療福祉関係法規 保健医療福祉行政論	平成28年4月 自己都合により退職。 新たに兼任講師が就任して担当するため支障なし。(28)

設 置 時 の 計 画					変 更 状 況					備 考
専任・ 兼任・ 兼任 の別	職 名	氏 名 (年 齢)	就任予定 年月	担当授業科目名	専任・ 兼任・ 兼任 の別	職 名	氏 名 (年 齢)	就任予定 年月	担当授業科目名	
兼 任	講 師	蓮池 豊子 (66)	平成26年4月	看護学概論※						平成27年4月 若林たけ子教授の就任により蓮池豊子兼任講師が退職。担当科目「看護学概論」は、若林たけ子教授が担当する。(27)
兼 任	講 師	榑 裕美 (27)	平成26年10月	基礎看護技術演習Ⅰ 基礎看護技術演習Ⅱ 基礎看護技術演習Ⅲ 基礎看護学実習Ⅱ 成人看護学実習Ⅱ (慢性期・回復期・終末期) 精神看護学実習 在宅看護学実習 公衆衛生看護学 実習Ⅲ（産業保健）	兼 任	講 師	榑 裕美 (28)	平成27年4月	基礎看護技術演習Ⅰ 基礎看護技術演習Ⅱ 基礎看護技術演習Ⅲ 基礎看護学実習Ⅱ 成人看護学実習Ⅱ (慢性期・回復期・終末期) 精神看護学実習 在宅看護学実習 公衆衛生看護学 実習Ⅲ（産業保健）	平成26年4月 自己都合により就任年度を変更。平成26年度開講科目「基礎看護技術演習Ⅰ」は上山千恵子兼任講師が担当するため支障なし。(26)
					兼 任	講 師	榑 裕美 (29)	平成28年4月	基礎看護技術演習Ⅰ 基礎看護技術演習Ⅱ 基礎看護技術演習Ⅲ 基礎看護学実習Ⅱ 成人看護学実習Ⅱ (慢性期・回復期・終末期) 精神看護学実習 在宅看護学実習 公衆衛生看護学 実習Ⅲ（産業保健）	平成27年4月 自己都合により就任年度を変更。科目担当分担を見直し。H27年度開講科目「基礎看護技術演習Ⅰ」「基礎看護技術演習Ⅱ」「基礎看護技術演習Ⅲ」は吉村雅世教授が追加担当、「基礎看護学実習Ⅱ」は、若林たけ子教授が就任したため支障なし。(27)
兼 任	講 師	辻下 守弘 (51)	平成26年10月	チーム医療論※ チーム医療演習	兼 任	講 師	辻下 守弘 (61)	平成26年4月	チーム医療論※ チーム医療演習 保健学Ⅰ（公衆衛生） 保健学Ⅱ（疫学）	平成27年4月 北野博子兼任講師の就任年度を変更により、「保健学Ⅰ（公衆衛生）」「保健学Ⅱ（疫学）」を追加担当する。(27) 平成28年4月 専任教授へ職位変更。 平成27年11月教員審査済(28) 「保健学Ⅰ（公衆衛生）」「保健学Ⅱ（疫学）」は平野文男兼任講師が担当するため支障なし(28)
					専	教授	辻下 守弘 (53)	平成28年4月	チーム医療論※ チーム医療演習 卒業研究Ⅱ	平成28年4月 新規採用「チーム医療論」他担当 平成27年11月教員審査済（前掲） (28)
兼 任	講 師	深澤 喜子 (41)	平成26年10月	基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 成人看護学実習Ⅱ (慢性期・回復期・終末期) 老年看護学実習Ⅰ 在宅看護学実習 統合看護学実習	兼 任	講 師	深澤 喜子 (42)	平成27年4月	基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 成人看護学実習Ⅱ (慢性期・回復期・終末期) 老年看護学実習Ⅰ 在宅看護学実習 統合看護学実習	平成26年4月 自己都合により就任年度を変更。平成26年度開講科目「基礎看護学実習Ⅰ」は八幡尚見兼任講師が就任し担当するため支障なし。(26)
					兼 任	講 師	深澤 喜子 (42)	平成28年4月	基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 成人看護学実習Ⅱ (慢性期・回復期・終末期) 老年看護学実習Ⅰ 在宅看護学実習 統合看護学実習	平成27年4月 自己都合により就任年度を変更。H27年度開講科目「基礎看護学実習Ⅰ」は平成26年度に兼任講師5名を追加配置しているため支障なし。「基礎看護学実習Ⅱ」は助手2名を新規採用したため支障なし。(27)
					兼 任	講 師	高橋 寿奈(47)	平成28年4月	基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 成人看護学実習Ⅱ (慢性期・回復期・終末期) 老年看護学実習Ⅰ 在宅看護学実習 統合看護学実習	平成28年4月 自己都合により就任を辞退。 新たに兼任講師が就任して担当するため支障なし。(28)
兼 任	講 師	石崎 利恵 (66)	平成26年10月	基礎看護学実習Ⅰ 成人看護学実習Ⅱ (慢性期・回復期・終末期) 老年看護学実習Ⅰ 在宅看護学実習 公衆衛生看護学 実習Ⅰ（地域活動） 公衆衛生看護学 実習Ⅱ（学校保健）						

設 置 時 の 計 画					変 更 状 況					備 考
専任・ 兼任・ 兼任 の別	職 名	氏 名 (年 齢)	就任予定 年月	担当授業科目名	専任・ 兼任・ 兼任 の別	職 名	氏 名 (年 齢)	就任予定 年月	担当授業科目名	
兼任	講師	柳瀬 由利子 (66)	平成26年10月	基礎看護学実習Ⅰ 成人看護学実習Ⅱ (慢性期・回復期・終末期) 老年看護学実習Ⅰ 老年看護学実習Ⅱ 在宅看護学実習 公衆衛生看護学 実習Ⅰ（地域活動）	兼任	講師	柳瀬 由利子 (67)	平成27年4月	基礎看護学実習Ⅰ 成人看護学実習Ⅱ (慢性期・回復期・終末期) 老年看護学実習Ⅰ 老年看護学実習Ⅱ 在宅看護学実習 公衆衛生看護学 実習Ⅰ（地域活動）	平成26年4月 自己都合により就任年度を変更。 平成26年度開講科目「基礎看護学実 習Ⅰ」は、宮田英子兼任講師が当該 科目を追加担当するため支障なし。 (26)
					兼任	講師	柳瀬 由利子 (67)	平成28年4月	基礎看護学実習Ⅰ 成人看護学実習Ⅱ (慢性期・回復期・終末期) 老年看護学実習Ⅰ 老年看護学実習Ⅱ 在宅看護学実習 公衆衛生看護学 実習Ⅰ（地域活動）	平成27年4月 自己都合により就任年度を変更。H 27年度開講科目「基礎看護学実習 Ⅰ」は平成26年度に兼任講師5名を追 加配置しているため支障なし。(27)
兼任	講師	堀川 良子 (67)	平成26年10月	基礎看護学実習Ⅰ 小児看護学実習 母性看護学実習 精神看護学実習 在宅看護学実習 統合看護学実習						
兼任	講師	亀井 啓子 (61)	平成27年4月	基礎看護学実習Ⅱ 老年看護学実習Ⅱ 母性看護学実習 精神看護学実習 在宅看護学実習 統合看護学実習	兼任	講師	亀井 啓子 (62)	平成28年4月	基礎看護学実習Ⅱ 老年看護学実習Ⅱ 母性看護学実習 精神看護学実習 在宅看護学実習 統合看護学実習	平成27年4月 自己都合により就任年度を変更。H 27年度開講科目「基礎看護学実習Ⅱ」 は助手2名を新規採用したため支障な し。(27)
兼任	講師	天野 直子 (38)	平成27年4月	基礎看護学実習Ⅱ 成人看護学援助論Ⅰ (急性期・周手術期) 成人看護学援助論Ⅱ (慢性期・回復期・終末期) 成人看護学実習Ⅰ (急性期・周手術期) 母性看護学実習 精神看護学実習 在宅看護学実習 統合看護学実習						
兼任	講師	小西 淳 (51)	平成28年9月	成人看護学実習Ⅰ (急性期・周手術期) 在宅看護学実習 統合看護学実習	兼任	講師	井上 智栄子 (27)	平成28年4月	成人看護学実習Ⅰ (急性期・周手術期) 在宅看護学実習 統合看護学実習	平成28年4月 自己都合により就任を辞退。 新たに兼任講師が就任して担当する ため支障なし。(28)
兼任	講師	瀬川 富美子 (61)	平成28年9月	老年看護学実習Ⅱ 小児看護学実習 母性看護学実習 感染症看護論 助産診断・技術学実習Ⅰ 助産診断・技術学実習Ⅱ 助産診断・技術学実習Ⅲ 助産診断・技術学実習Ⅳ						
兼任	講師	梶間 敦子 (61)	平成28年4月	母性看護学援助論 在宅看護学実習 助産診断・技術学Ⅱ 助産診断・技術学実習Ⅰ 助産診断・技術学実習Ⅱ 助産診断・技術学実習Ⅲ 助産診断・技術学実習Ⅳ						平成28年4月 専任助手に採用(28)
兼任	講師	松本 恵子 (42)	平成28年9月	母性看護学実習 在宅看護学実習 統合看護学実習 助産診断・技術学実習Ⅰ 助産診断・技術学実習Ⅱ 助産診断・技術学実習Ⅲ 助産診断・技術学実習Ⅳ						

設 置 時 の 計 画					変 更 状 況					備 考
専任・兼任・兼任の別	職 名	氏 名 (年 齢)	就任予定 年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職 名	氏 名 (年 齢)	就任予定 年月	担当授業科目名	
兼任	講師	山本 智子 (38)	平成28年9月	小児看護学実習 在宅看護学実習 公衆衛生看護学 実習Ⅲ（産業保健） 助産診断・技術学実習Ⅰ 助産診断・技術学実習Ⅱ 助産診断・技術学実習Ⅲ 助産診断・技術学実習Ⅳ	兼任	講師	山本 智子 (36)	平成26年10月	小児看護学実習 在宅看護学実習 公衆衛生看護学 実習Ⅲ（産業保健） 助産診断・技術学実習Ⅰ 助産診断・技術学実習Ⅱ 助産診断・技術学実習Ⅲ 助産診断・技術学実習Ⅳ 基礎看護学実習Ⅰ	平成26年4月 教育指導体制充実のため就任年度を変更。 光井朱美兼任講師の就任年度変更のため「基礎看護学実習Ⅰ」を追加担当する。(26)
兼任	講師	中島 綾 (45)	平成28年9月	在宅看護学実習 公衆衛生看護学 実習Ⅰ（地域活動） 助産診断・技術学実習Ⅰ 助産診断・技術学実習Ⅱ 助産診断・技術学実習Ⅲ 助産診断・技術学実習Ⅳ						
兼任	講師	新谷 奈苗 (53)	平成28年4月	チーム医療演習 公衆衛生看護学Ⅲ （産業保健）	兼任	講師	新谷 奈苗 (52)	平成26年9月	チーム医療演習 公衆衛生看護学Ⅲ （産業保健） 公衆衛生看護学概論 公衆衛生看護学 Ⅰ（地域活動） 基礎看護技術演習Ⅰ	平成26年6月末 三毛美恵子准教授が退職のため、新谷奈苗兼任講師の就任年度を変更し「基礎看護技術演習Ⅰ」を追加担当した。H27年3月まで。(27) 平成27年4月 就任年度を変更。尾ノ井美由紀兼任講師の就任年度変更のため「公衆衛生看護学概論」を追加担当する。光井朱美兼任講師の就任年度変更のため「公衆衛生看護学Ⅰ（地域活動）」を追加担当する。(27) 平成28年4月 尾井准教授の後任として新規採用 平成28年1月教員審査済み（前掲） (28)
兼任	講師	伊藤 憲子 (38)	平成29年10月	災害看護論	兼任	講師	堀内 美由紀 (53)	平成29年4月	災害看護論	平成29年3月兼任の伊藤憲子講師現職の都合により就任辞退(29)
兼任	講師	藤林 弘子 (55)	平成29年10月	医療安全管理学	兼任	講師	大野 典子 (53)	平成29年4月	医療安全管理学	平成29年3月兼任の藤林弘子講師現職の都合により就任辞退(29)
兼任	講師	木村 正則 (54)	平成27年10月	保健医療英語Ⅰ 保健医療英語Ⅱ （文献講読）						
兼任	講師	内藤 紀代子 (47)	平成29年4月	国際保健医療看護演習						
兼任	講師	齊藤 守重 (75)	平成28年4月	周産期医学	兼任	講師	北村 毅次郎 (65)	平成29年4月	周産期医学	平成29年3月齊藤守重講師 現職の都合により就任辞退(29)
					兼任	講師	八幡 尚見 (47)	平成26年4月	早期体験演習 基礎看護学実習Ⅰ	平成26年4月 教育指導体制充実のため新規採用。 (26) 平成27年4月 若林たけ子教授の就任により八幡尚見兼任講師が退職。担当科目「早期体験演習」「基礎看護学実習Ⅰ」は、若林たけ子教授が担当する。 (27)
					兼任	講師	瀬山 由美子 (42)	平成26年4月	早期体験演習 基礎看護技術演習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅰ	平成26年4月 教育指導体制充実のため新規採用。 (26) 平成28年4月 専任助手に採用。(28)
					兼任	講師	新道 理香 (41)	平成26年4月	早期体験演習 基礎看護学実習Ⅰ	平成26年4月 教育指導体制充実のため新規採用。 (26)
					兼任	講師	山本 和恵 (62)	平成26年4月	早期体験演習	平成26年4月 教育指導体制充実のため新規採用。 (26)
					兼任	講師	片渕 哲朗 (57)	平成27年4月	基礎看護技術演習Ⅲ	平成27年4月 教育指導体制充実のため新規採用。 (27)
					兼任	講師	津田 淳 (56)	平成27年4月	基礎看護技術演習Ⅲ	平成27年4月 教育指導体制充実のため新規採用。 (27)

設 置 時 の 計 画					変 更 状 況					備 考
専任・ 兼任・ 兼任 の別	職 名	氏 名 (年 齢)	就任予定 年月	担当授業科目名	専任・ 兼任・ 兼任 の別	職 名	氏 名 (年 齢)	就任予定 年月	担当授業科目名	
専任補 充				公衆衛生看護学 方法論Ⅰ※			後任未定		公衆衛生看護学 方法論Ⅰ※	平成26年4月 教員審査の結果不可科目となったた め後任教員を募集中。(26)
										平成27年9月 井上葉子助教を新規採用（前掲） 平成27年7月教員審査済(28) 平成28年4月 新谷奈苗教授、立川茂樹講師を新規 採用（前掲） 平成28年1月教員審査済(28) 共同で当該科目を担当。(28)
兼 任 可				公衆衛生看護学 Ⅱ（学校保健）			後任未定		公衆衛生看護学 Ⅱ―(学校保健)―	平成26年4月 教員審査の結果不可科目となったた め後任教員を募集中。(26)
										平成28年4月 岡本啓子兼任講師を新規採用。当該 科目を担当。(28)

- (注)

 - ・ 申請書の様式第3号（その2の1）に準じて作成してください。
 - ・ 後任が決まっていない場合には、「後任未定」と記入してください。
 - ・ 辞任者は「備考」に退職年月、氏名、理由を記入してください。
 - ・ 年齢は、「設置時の計画」には当該学部等の就任時における満年齢を，「変更状況」には平成29年5月1日現在の満年齢を記入してください。
 - ・ 教員を学年進行中に変更した又は変更する予定の場合（「新規採用」，「担当授業科目の変更」又は「昇格」をいう。）は，変更後の状況を記入するとともに，その理由，後任者が決まっていない場合は，「変更状況」の「氏名」に「後任未定」と記入し，及び今後の採用計画を「備考」に記入してください。
 - ・ 認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は，当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し，大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。
 - ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「○年○月教員審査済」，変更書を提出予定の場合は「○年○月変更書提出予定」と記入してください。
 なお，設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は，「備考」に「（教員審査省略）」及びその変更の理由，変更年度（ ）書き等のみを記入してください。

(2) 専任教員数等

(2)－① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における設置基準上の必要専任教員数	うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数
12 名	6 名

(注) ・ 大学設置基準第十三条別表第一、短期大学設置基準第二十二條別表第一イにより算出される専任教員数を記入してください。

(2)－② 専任教員数

設置時の計画					現在（報告書提出時）の状況					現在（報告書提出時）の完成年度時の計画				
教 授	准教授	講 師	助 教	計	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (A)	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (B)
9	6	7	7	29	11	5	5	3	24	11	5	5	3	24
(8)	(5)	(4)	(6)	(23)						[2]	[△1]	[△2]	[△4]	[△5]

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、（ ）内に開設時の状況を記入してください。
・ 「現在（報告書提出時）の状況」には、報告書提出年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
・ 「現在（報告書提出時）の完成年度時の計画」には、報告書提出年度の5月1日現在、完成年度時に計画している教員数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2)－③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢（歳）	報告書提出時（上記（A））の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時（上記（B））の教員うち、定年を延長して採用する教員数
65 歳	3 名	3 名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、および、平成29年5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(3) 専任教員辞任等の理由
(3)－① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由								
1	助教	上山 千恵子	必修	早期体験演習	①	自己都合により専任助教として就任を辞退し、兼任講師として就任(26)								
			必修	基礎看護学実習Ⅰ	①									
			必修	基礎看護学実習Ⅱ	①									
2	准教授	尾ノ井 美由紀	必修	基礎看護学実習Ⅰ	①	自己都合のため就任辞退(28)								
			必修	基礎看護学実習Ⅱ	①									
			必修	卒業研究Ⅱ	①									
			必修	公衆衛生看護学概論	②									
			選択	公衆衛生看護学実習Ⅰ（地域活動）	①									
			選択	公衆衛生看護学実習Ⅱ（学校保健）	①									
			選択	公衆衛生看護学実習Ⅲ（産業保健）	①									
3	講師	光井 朱美	選択	公衆衛生看護学診断演習	①	自己都合のため就任辞退(28)								
			必修	基礎看護学実習Ⅰ	①									
			必修	基礎看護学実習Ⅱ	①									
			必修	卒業研究Ⅱ	①									
			選択	公衆衛生看護学方法論Ⅱ	①									
			選択	公衆衛生看護学Ⅰ（地域活動）	①									
			選択	公衆衛生看護学実習Ⅰ（地域活動）	①									
4	助教	肥後 雅子	選択	公衆衛生看護学実習Ⅱ（学校保健）	①	自己都合のため就任辞退(28)								
			選択	公衆衛生看護学実習Ⅲ（産業保健）	①									
			必修	基礎看護学実習Ⅰ	①									
			必修	基礎看護学実習Ⅱ	①									
			必修	成人看護学援助論Ⅰ（急性期・周手術期）	①									
			必修	成人看護学援助論Ⅱ（慢性期・回復期・終末期）	①									
			必修	成人看護学実習Ⅰ（急性期・周手術期）	①									
			必修	成人看護学実習Ⅱ（慢性期・回復期・終末期）	①									
			必修	統合看護学実習	①									
			必修	卒業研究Ⅱ	①									
合計（Ａ）					後任補充状況の集計（Ｂ）									
就任を辞退した教員数			担当科目数の合計（a）＋（b）＋（c）		①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）					
4	人		必修	18	科目	必修	17	科目	必修	1	科目	必修	0	科目
			選択	9	科目	選択	9	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
			自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
			計	27	科目	計	26	科目	計	1	科目	計	0	科目

- （注）・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「（３）－②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
- ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 - ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 - ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由
1	准教授	三毛 美恵子	必修	早期体験演習	①	体調不良により療養休暇取得後、平成26年6月末辞任(27)
			必修	看護学概論	①	
			必修	基礎看護技術演習Ⅰ	①	
			必修	基礎看護技術演習Ⅱ	①	
			必修	基礎看護技術演習Ⅲ	①	
			必修	看護理論	①	
			必修	看護過程演習	①	
			必修	基礎看護学実習Ⅰ	①	
			必修	基礎看護学実習Ⅱ	①	
			必修	卒業研究Ⅱ	①	
2	准教授	藤原 尚子	必修	ヘルスアセスメント	①	自己都合のため辞任(27)
			必修	基礎看護学実習Ⅰ	①	
			必修	基礎看護学実習Ⅱ	①	
			必修	成人看護学援助論Ⅰ (急性期・周手術期)	①	
			必修	成人看護学援助論Ⅱ (慢性期・回復期・終末期)	①	
			必修	成人看護学実習Ⅰ (急性期・周手術期)	①	
			必修	成人看護学実習Ⅱ (慢性期・回復期・終末期)	①	
			必修	卒業研究Ⅱ	①	
3	准教授	家根 明子	必修	卒業研究Ⅱ	①	自己都合のため辞任(27)
			選択	公衆衛生看護学 方法論Ⅰ	①	
			選択	公衆衛生看護学 実習Ⅰ(地域活動)	①	
			選択	公衆衛生看護学 実習Ⅱ(学校保健)	①	
			選択	公衆衛生看護学 実習Ⅲ(産業保健)	①	
			選択	公衆衛生看護学 診断演習	①	
4	講師	勝眞 久美子	選択	キャリアデザインⅡ	②	自己都合のため辞任(27)
			選択	キャリア ディベロップメントⅠ	②	
			選択	キャリア ディベロップメントⅡ	②	
			選択	キャリア スキルアップⅠ	②	
			選択	キャリア スキルアップⅡ	②	
			選択	看護キャリア開発論	②	
5	准教授	岡本 響子	必修	早期体験演習	①	自己都合のため辞任(28)
			必修	看護学概論	①	
			必修	基礎看護学実習Ⅰ	①	
			必修	精神看護学援助論	①	
			必修	精神看護学実習	①	
			必修	統合看護学実習	①	
			必修	卒業研究Ⅱ	①	
6	講師	廣川 聖子	必修	基礎看護学実習Ⅰ	①	自己都合のため辞任(28)
			必修	基礎看護学実習Ⅱ	①	
			必修	成人看護学援助論Ⅰ (急性期・周手術期)	①	
			必修	成人看護学実習Ⅰ (急性期・周手術期)	①	
			必修	成人看護学実習Ⅱ (慢性期・回復期・終末期)	①	
			選択	家族援助論	②	
			必修	統合看護学実習	①	
			必修	卒業研究Ⅱ	①	
7	講師	大山 真貴子	必修	早期体験演習	①	自己都合のため辞任(28)
			必修	基礎看護学実習Ⅰ	①	
			必修	基礎看護学実習Ⅱ	①	
			必修	成人看護学援助論Ⅱ (慢性期・回復期・終末期)	①	
			必修	成人看護学実習Ⅰ (急性期・周手術期)	①	
			必修	成人看護学実習Ⅱ (慢性期・回復期・終末期)	①	
			必修	統合看護学実習	①	
			必修	卒業研究Ⅱ	①	

番 号	職 位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由
8	講師	出原 弥和	必修	早期体験演習	①	自己都合のため辞任(28)
			必修	基礎看護学実習Ⅰ	①	
			必修	母性看護学援助論	①	
			必修	母性看護学実習	①	
			必修	統合看護学実習	①	
			必修	卒業研究Ⅱ	①	
			選択	助産診断・技術学Ⅰ	①	
			選択	助産診断・技術学Ⅲ	①	
			選択	助産診断・技術学演習	①	
			選択	助産診断 ・技術学実習Ⅰ	①	
			選択	助産診断 ・技術学実習Ⅱ	①	
			選択	助産診断 ・技術学実習Ⅲ	①	
			選択	助産診断 ・技術学実習Ⅳ	①	
			必修	早期体験演習	①	
9	助教	高橋 里沙	必修	基礎看護技術演習Ⅰ	①	自己都合のため辞任(28)
			必修	基礎看護技術演習Ⅱ	①	
			必修	基礎看護技術演習Ⅲ	①	
			必修	看護過程演習	①	
			必修	基礎看護学実習Ⅰ	①	
			必修	基礎看護学実習Ⅱ	①	
			必修	国際保健医療看護論	② ①	
			選択	国際保健医療看護演習	② ①	
			必修	統合看護学実習	①	
			必修	卒業研究Ⅱ	①	
			必修	早期体験演習	①	自己都合のため辞任(27)
10	助教	高橋 晶	必修	基礎看護学実習Ⅰ	①	
			必修	基礎看護学実習Ⅱ	①	
			必修	卒業研究Ⅱ	①	
			選択	公衆衛生看護学 方法論Ⅱ	①	
			選択	公衆衛生看護学 Ⅰ（地域活動）	①	
			選択	公衆衛生看護学 実習Ⅰ（地域活動）	①	
			選択	公衆衛生看護学 実習Ⅱ（学校保健）	①	
			選択	公衆衛生看護学 実習Ⅲ（産業保健）	①	
			選択	公衆衛生看護学 診断演習	①	
11	教授	坊垣 友美	必修	ヘルスアセスメント	①	自己都合のため辞任(28)
			必修	成人看護学概論	①	
			必修	成人看護学援助論Ⅰ （急性期・周手術期）	①	
			必修	成人看護学援助論Ⅱ （慢性期・回復期・終末期）	①	
			必修	成人看護学実習Ⅰ （急性期・周手術期）	①	
			必修	成人看護学実習Ⅱ （慢性期・回復期・終末期）	①	
			選択	ターミナルケア論	①	
			必修	統合看護学実習	①	
			必修	卒業研究Ⅱ	①	
			選択	行動科学の基礎	②	自己都合のため辞任(28)
12	教授	吉岡 隆之	選択	感性・イメージ表現	②	
			必修	健康スポーツ（理論）	②	
			選択	文化芸術交流論※	②	
			選択	文化芸術交流演習	②	
			選択	キャリアデザインⅡ	②	
			選択	キャリア ディベロップメントⅡ	①	
			選択	キャリア スキルアップⅠ	①	
			選択	キャリア スキルアップⅡ	①	
			必修	保健医療学概論※	②	
			選択	ヘルス プロモーション論※	②	
			選択	国際保健医療看護演習	①	

番 号	職 位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由							
13	講師	西田 絵美	必修	母性看護学援助論	①	自己都合のため辞任(28)							
			必修	母性看護学実習	①								
			必修	卒業研究Ⅱ	①								
			選択	ウイメンズヘルス学	①								
			選択	助産診断・技術学Ⅰ	①								
			選択	助産診断・技術学Ⅱ	①								
			選択	助産診断・技術学演習	①								
			選択	助産診断・技術学実習Ⅰ	①								
			選択	助産診断・技術学実習Ⅱ	①								
			選択	助産診断・技術学実習Ⅲ	①								
			選択	助産診断・技術学実習Ⅳ	①								
			選択	地域母子保健	①								
14	教授	中川 晶	必修	保健医療学概論	②	自己都合のため辞任(29)							
			選択	心身医療論	②								
			選択	カウンセリング論	②								
			必修	保健医療倫理学	②								
			選択	行動変容アプローチ	②								
15	助教	大濱 恵美子	必修	早期体験演習	①	自己都合のため辞任(29)							
			必修	基礎看護学実習Ⅱ	①								
			必修	在宅看護学援助論	①								
			必修	在宅看護学実習	①								
			必修	統合看護学実習	①								
			必修	卒業研究Ⅱ	①								
合計（C）					後任補充状況の集計（D）								
辞任した教員数		担当科目数の合計（a）＋（b）＋（c）			①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）				
15	人	必修	81	科目	必修	77	科目	必修	4	科目	必修	0	科目
		選択	48	科目	選択	28	科目	選択	20	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	129	科目	計	105	科目	計	24	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、辞任した**全ての専任教員**の辞任の理由を具体的に記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および()書きで報告年度を記入してください。
- ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

上記(3)－① ・ (3)－② の合計

合計（A）＋（C）				後任補充状況の集計（B）＋（D）									
辞任等した教員数		担当科目数の合計（a）＋（b）＋（c）			①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）				
19	人	必修	99	科目	必修	94	科目	必修	5	科目	必修	0	科目
		選択	57	科目	選択	37	科目	選択	20	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	156	科目	計	131	科目	計	25	科目	計	0	科目

- (注) ・ 就任辞退(未就任)及び辞任した全専任教員について、教員数、担当科目数の合計、後任補充の状況を記入ください。

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

・就任辞退した上山千恵子助教は、兼任講師として就任し予定科目を担当するため授業運営に係る影響はない。また学生に対しては入学直後に実施したオリエンテーションで周知済である。(26)

・三毛美恵子准教授は平成26年5月末からの病気療養休暇を経て6月末に退職された。平成26年度前期担当科目は「看護学概論(オムニバス)」「早期体験演習(集中・共同)」、後期担当科目は「看護理論」「基礎看護技術演習Ⅰ」「基礎看護学実習Ⅰ(集中・共同)」である。療養中の「看護学概論」の授業の進捗を勘案し6月より兼任講師を採用するとともに、学部教務委員から授業前にその旨を学生に報告して周知した。これらの対応により授業運営に係る影響はなかった。早期体験演習は7月第4週の集中授業であり、同様に兼任講師を採用したため、授業運営に係る影響はなかった。後期開講科目については、9月より兼任講師を採用し、後期授業開始前に学生に周知した。平成27年度からは、後任として平成26年9月教員審査を受けた中馬成子教授と平成27年1月に教員審査を受けた若林たけ子教授を新規採用した。

・藤原尚子准教授及び家根明子准教授の担当科目は、平成27年7月に教員審査を受ける予定。それまでは暫定的に兼任講師が担当するため授業運営に係る影響はない。

・勝眞講師の担当科目は、本人が兼任講師に就任して担当する他、兼任講師を新規採用して勝眞講師と意見交換しながら授業を行うため運営に係る影響はない。

・平成27年度の教員の交替についてはシラバス等で周知するとともに入学直後に実施したオリエンテーションで周知済である。(27)

・大勢の教員が辞任しているが、ほぼ後任がAC教員審査による「可」の判定を得て、着任しているため、学生への授業提供には支障はない。後任を選考中の前任者担当科目についても、専任教員が十分対応できる体制で授業を行っているため、支障はない。

・教員の交替についてはシラバス等で周知し、成績発表時、履修相談日、履修登録時に周知している。新入生については、オリエンテーションで周知している。(28)

・4名の専任教員が辞任したが、後任採用者が迅速にAC教員審査による「可」の判定を得て、着任しているため、学生への授業提供には支障はない。

・教員の交替については、成績発表時、履修相談日、履修登録時に周知している。新入生、在学生については、年度当初のオリエンテーションで周知している。(29)

・「ターミナルケア論」担当の専任教員3名のうち1名(坊垣友美教授)が自己都合により退職したため担当者が2名になり、専任教員1名を平成29年6月の教員審査を受審して補充する。(29)

(注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください

6 留意事項等に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設 置 時 (26年4月)	1. 非常勤実習指導教員の採用基準について、「公衆衛生看護学を担当する者は保健師免許を有することが望ましい」とされているが、実習の質を確保するためには、保健師免許を有している者を採用することが必要であるため、採用基準を見直し、確実に実行すること。 2. 助手または非常勤実習指導教員への指導体制について、「看護協会等が主催する臨地実習指導者の質の向上のための講習会や研修会の参加を促す」ことが計画されているため、特に非常勤実習指導教員についても、計画どおり着実に実行すること。また、大学教育に相応しい実習の質を担保するためにはFD活動の充実が必要であると考えられるため、助手及び非常勤実習指導教員を含めた実習に関するFDの具体的計画を策定の上、着実に実行すること。	設置計画における非常勤実習指導者17名の免許保有状況は下記の通りである。 看護師のみ 8名 看護師＋保健師 1名 看護師＋助産師 7名 看護師＋保健師＋助産師 1名 また、平成26年5月時点で、自己都合により専任助教から非常勤講師に変更となった上山千恵子と実習指導体制の充実のため新規採用した非常勤実習指導者の計5名についても保健師免許を有する者は1名のみの状況である。 平成27年度末を目途に採用基準を見直すとともに、平成29年度開講の公衆衛生看護学実習に支障が生じないよう保健師免許を有している非常勤教員5名を採用する。(26) 平成26年度に教員人事委員会規程を制定し、教員採用手順の明確化を行った。この中で、補充すべき科目担当者や領域を学部教授会で審議した上で委員会に上程することとしている。このことにより、採用基準に保健師免許の有無等を加えることができる。公衆衛生看護学実習の担当者の採用基準を「保健師免許保有者」とし、この採用基準に基づく非常勤講師採用を平成29年度の開講までに計画的に進める。(27) 平成27年度に採用計画を策定し、保健師免許を持つ専任教員採用について検討した。AC教員審査を経て、平成28年4月に教授1名、講師1名、助教1名を新規採用した。このことで、全ての公衆衛生看護学に関係する授業科目で、保健師免許を持つ教員が担当することとなった。(28) 平成28年度に保健師免許を持つ専任教員の追加採用を検討した。AC教員審査を経て、平成29年4月に保健師免許をもつ准教授を1名を新規採用した。(29) 1) 助手または非常勤実習指導教員への指導体制 看護協会等が主催する臨地実習指導者の質の向上のための講習会や研修会の参加を促し、助手または非常勤実習指導教員への指導体制を向上させる。具体的には奈良県の委託を受けて同県看護協会が平成26年8月20日から10月17日まで実施する平成26年度実習指導者講習会の「公開講座」への参加を予定している。公開講座の科目は教育原理6時間、教育方法12時間、看護形態機能学6時間であり、教育原理の目的は“教育の意義や基礎的な概念について学ぶ”であり、教育方法の目的は“教育の基本的な方法や技術について理解を深める”である。(26)	

			1) 平成26年度に引き続き、本学で開催する講演会を含め、教育の質を確保し高める研修の場を設定した。実施事項は以下の通り。 4月4日 非常勤講師教育懇談会 都ホテル 6月17日 平成27年度実習協議会 ・保健医療学部看護学科の教育理念 ・保健医療学部看護学臨地実習の考え方 ・早期体験演習の概要説明 ・実習担当教員及び臨地実習指導者による打合せ 5月27日 早期体験演習学内オリエンテーション 2月1日 基礎看護学実習Ⅰ学内オリエンテーション 9月5日 基礎看護学実習Ⅱ学内オリエンテーション F D講演会・研修会 第1回：12月10日①『教える』とは 第2回：1月13日②『授業/教育内容について』 第3回：2月10日③『授業/教育方法について』 第4回：3月9日④『教育評価について』 (27) 2) 平成28年度の計画 平成27年度と同様に、F D講演、教育講演、セミナー等研修の機会を作る。(28) 1) 平成28年度、本学で開催する講演会を含め、教育の質を確保し高める研修の場を設定した。実施事項は以下の通りである。 4月4日 非常勤講師教育懇談会 6月15日 実習協議会 ・看護学実習について ・実習計画（教員紹介を含む） ・実習に関わる関係者の懇談 ・教育講演「学生の社会的能力」 ～今どきの学生、新人看護師の指導に役立てる予備知識～ 5月26日 早期体験演習学内オリエンテーション 1月30日 基礎看護学実習Ⅰ学内オリエンテーション 9月2日 基礎看護学実習Ⅱ学内オリエンテーション F D講演会・研修会 第1回：8月10日「成功する研究企画」 第2回：8月23日「大学におけるアクティブラーニング」 第2回：3月9日「ルーブリック評価の導入と実際」 第3回：3月29日「看護診断について」 2) 平成29年度の計画 平成28年度と同様に、F D講演、教育講演、セミナー等 研修の機会を作る。(29)	
--	--	--	--	--

	3. 学内実習室の整備が十分であることの説明が不十分であるため、以下の点を踏まえ4年間の実習室利用について綿密なシミュレーションをした上で、教育研究に支障のない学内実習室、演習室の使用計画及び整備方針を策定し、確実に実行すること。 (1) 臨地実習期間中の帰校日が水曜日と設定され、帰校日には学内実習室で授業をすることが想定されるが、その時間帯に他学年の演習が実習室で行われており、臨地実習期間中の学生への学内実習室を使用した授業ができないことが懸念されるため、支障のない施設使用及び整備計画を策定し、着実に実行すること。 (2) 精神看護学実習室は整備しない計画であるが、教育研究に支障のない環境が整備されているか再検討し、必要に応じて整備すること。 (3) 「助産診断・技術学Ⅱ」及び「助産診断・技術学Ⅲ」については、開講時期の曜日・時限を指定せず、教室があいている時間に実施する計画であるが、実際に学生が受講できるか不明なため、時間割に配置するとともに、教室の使用についても割り当てた上で、確実に実行すること。		学内実習室の整備が十分であることの説明が不十分であることのご指摘を受けて学内実習室の使用について下記のとおり整理を行った。 ①各領域の概論の授業形態は講義であり、基本的に学内実習室を使用しない。 ②学内実習室を使用する科目は、各領域の援助論と演習である。 ③公衆衛生看護学診断は、学内実習室でなく演習室を使用する。 ④老年・精神・在宅及び公衆衛生看護学領域とも、基礎・成人実習室は使用しない。 上記の整理に基づき、授業時間割表(案)の検証を行ったところ、現時点の想定では4年間のシミュレーションにおいて前・後期とも学内実習室や演習室に使用の重複はなく、教育研究に支障はない。しかしながら、学部運営の中で様々な事態も想定されるため、引き続き綿密な使用計画の策定と検証を行うものとする。(26) (1)について 臨地実習期間中(3年次後期)の水曜日の帰校日について授業時間割表(案)で検証したところ、学内実習室を使用する開講科目はない。従って、帰校日に学内実習室を使用することは可能であり教育研究に支障はない。(26) (2)について 「精神看護学概論」の授業形態は講義であり学内実習施設を使用しない。また「精神看護学援助論」についても、設置計画において演習形態の授業を計画していないため学内実習施設を使用しない。(26) (3)について 「助産診断・技術学Ⅱ」及び「助産診断・技術学Ⅲ」は、設置計画において3年次通年科目として開講時期の曜日・時限を指定せず教室が空いている時間に実施する計画であったが、授業進度の点から3年次前期の「母性看護学援助論」の履修後に開講することが望ましいと判断し、3年次後期の土曜日に授業を行うよう、授業時間割表(案)に配置した。 ただし、運用上は3年次後期は臨地実習期間中であるが、常に実習に行くわけではなく平日の空きの期間もあるため、可能であれば助産のグループをかためることで、平日の空きの期間に授業を入れ込んで実施することも可能である。(添付資料)保健医療学部看護学科授業時間割(案)(26)	
--	--	--	---	--

	4. 教員の補充を必要とされた2授業科目については、科目開設時までに教員を充足すること。うち、専任教員の配置を必要とされた1授業科目については、確実に専任教員を配置すること。		平成26年度に検証したとおり、問題ない。 計画通り着実に実行する。(27) 計画通り着実に実行する。(28) (3)については、平成28年度、助産師課程の学生の領域臨地実習の期間を調節し、終了後、2月、3月に使用教室を固定し集中講義として実施した(授業時間割表に明示)。 平成29年度も同様に実施する予定である。(29) 教員補充を必要とされた「公衆衛生看護学方法論Ⅰ」と「公衆衛生看護学Ⅱ(学校保健)」はいずれも平成28年度開講科目である。科目開設時までに教員を充足する。 特に、専任教員の配置を必要とされた「公衆衛生看護学方法論Ⅰ」については、開講に間に合うよう専任教員採用等設置計画変更書(AC)を提出し教員資格審査を受審する。(26) 引き続き、平成28年度の科目開講時に間に合うよう、平成27年度中に専任教員採用等設置計画変更書(AC)を提出し教員資格審査を受審する。(27) 平成28年4月に専任教授、専任講師、専任助教及び兼任講師が着任した。 平成27年度教員審査済(28) 平成29年4月に専任准教授1名が着任した。 平成28年度教員審査済(29)	
設置計画履行状況調査時 (27年2月)	該当なし	該当なし	該当なし(27)	
設置計画履行状況調査時 (28年2月)	該当なし	該当なし	該当なし(28)	
設置計画履行状況調査時 (29年2月)	該当なし	該当なし	該当なし(29)	

- (注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時(認可時又は届出時)に付された留意事項(学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。)と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を()書きで付記してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された意見に対する履行状況等について、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
 - ・ 定員管理に係る留意事項への履行状況は、指摘を受けた学科等についてのみ記入してください。
 - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」の(年月)には、調査結果を公表した月(通常2月)を記入してください。(実地調査や面接調査を実施した日ではありません。)

7 その他全般的事項

<保健医療学部 保健医療学科>

(1) 設置計画変更事項等

設 置 時 の 計 画	変更内容・状況、今後の見通しなど
該当なし	

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。
・ 設置時の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については適宜項目を設けてください。（記入例参照）

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

専門委員会にFD委員会を設置している。FD委員は各学部から選出され、教員の資質の維持向上のために協議し各施策に取り組んでいる。
（参考）奈良学園大学FD委員会規程

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

委員会は、毎月定例に開催している。平成28年度実績は次のとおり。

第1回	4月22日	構成員8名中	7名出席
第2回	5月27日	構成員8名中	7名出席
第3回	6月24日	構成員8名中	7名出席
第4回	9月23日	構成員8名中	7名出席
第5回	10月28日	構成員8名中	8名出席
第6回	2月24日	構成員8名中	7名出席
第7回	3月24日	構成員8名中	6名出席

以上

c 委員会の審議事項等

FD委員会は、次の事項を審議する。

(1) 授業改善のための基本方針の策定に関する事項

(2) 教育活動における教職員の交流と研修に関する事項

(3) 教員の教授活動相互研鑽に関する事項

(4) 学生による授業評価の実施に関する事項

(5) 学生の勉学能力の育成に関する事項

(6) その他委員会が必要と認めた事項

② 実施状況

a 実施内容

・ 授業改善シート

・ 教員相互の授業参観（公開授業）

・ 授業評価アンケート

・ 非常勤講師教育懇談会

・ 実習協議会

・ FD講演会

b 実施方法

・ 授業改善シート

授業期間の前半に授業改善シートを実施し、学生の意見を集約する。その上でシートの内容を参考にしながら授業方法を改善する。

・ 教員相互の授業参観（公開授業）

専任教員が担当する授業（但し、演習系、スポーツ実習系、オムニバス、10名以下の履修者の科目を除く）を対象に、教員相互が授業参観する。

年2回（前・後期各1回）実施。実施期間中に最低2回授業を参観する。

授業を参観後、参観票に記入し、教務課に提出する。提出された参観票は教務課で整理後、FD委員会においてチェックし、各授業の担当教員に渡す。担当教員は、参観票を読んで、自分の授業の改善のために役立てる。

・ 全ての授業について授業評価アンケートを、前期末後期末の2回実施。

・ 非常勤講師教育懇談会

非常勤講師と大学執行部との意見交換や交流を目的とする。

・ 平成28年度実習協議会

平成28年度実習に関わる実習施設の指導者、非常勤教員を対象に教育理念、教育目標、実習目標、実習科目・実習計画の概略説明を行い、資質の向上を図った。

・ FD講演会

講演会を開催し、教員の教育の質の向上を図る。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

・ 教員相互の授業参観（公開授業）

実施期間 教員全員参加（各人2回ずつ）

前期

【三郷キャンパス】 6月6日（月）～6月18日（土）

【登美ヶ丘キャンパス】 6月6日（月）～6月18日（土）

後期

【三郷キャンパス】 11月28日（月）～12月9日（金）

【登美ヶ丘キャンパス】 11月28日（月）～12月9日（金）

・ 非常勤講師教育懇談会

4月5日（水）開催。全学部あわせて、35名の出席があり、非常勤講師と懇談した。

・ 平成28年度実習協議会

6月15日（水）14：00～17：00 33施設より68名が参加した。

大学・学部・実習説明等を行い、懇親会を実施し、希望者には施設見学を行った。その後、岐阜大学名誉教授 箕浦とき子氏による「今の学生の社会力・教育の仕方」というテーマで教育講演を行った。

・ FD講演会・研修会

FD講演会（講演と意見交換）を2回、研修会を2回開催した。

・ FD講演会

第1回：平成28年8月23日（火）15：00～ 三郷キャンパスで実施 約60名参加

講師：溝上慎一（京都大学高等教育研究開発推進センター 教授）

演題：「大学におけるアクティブラーニング」

第2回：平成28年3月9日（木）13：00～ 登美ヶ丘キャンパスで実施 約30人参加

講師：井上史子（帝京大学高等教育開発センター 主任）

演題：「ルーブリック評価の導入と実際」

・ FD研修会（2回開催）

第1回 平成28年8月10日（水）10：30～ 登美ヶ丘キャンパスで実施 18名参加

講師：服部兼敏（元神戸市看護大学教授）

演題：「成功する研究企画」

第2回 平成29年3月29日（水）13：00～ 登美ヶ丘キャンパスで実施 約15人参加

講師：上野栄一（福井大学医学部看護学科 教授）

演題：「看護診断について」

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

今後も、全学FD委員会事業に参加するとともに、定期的な学部連絡会の開催や日常的な教員相互の授業参観の実施等により、学生の動向についての情報共有や授業改善に関する意見交換等、人間教育学部独自の教育改善や実習改善に関する教員の資質向上を図るための取り組みを進めていく。参加者は、自己評価と研修を通じて授業方法の改善に役立てていく。

FD活動の流れ

※下記のサイクルで、授業の改善を行っている。

- ① 授業期間の前半に授業改善シートを実施し、学生の意見を集約する。
- ② 授業改善シートの内容を参考にしながら授業方法を改善していく。
- ③ 授業期間の中盤に、参観授業を行い他の教員の意見を聞く。
- ④ 他の教員から出た意見を参考にしながら授業方法を改善していく。
- ⑤ 授業期間の後半に授業評価アンケートを実施し、学生の理解度を確認する。
- ⑥ 授業評価アンケートの集計結果を、次の学期の授業改善に活かす。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

前期末後期末の2回実施した。

授業評価アンケートは次のとおり。

・前期 授業評価アンケート 7月11日（月）及び7月16日（土）～7月29日（金）

・後期 授業評価アンケート 1月16日（月）～1月28日（土）

※集計結果は大学ホームページにアップし公開している。

(http://www.naragakuen-u.jp/introduction/class_evaluation.html)

b 教員や学生への公開状況、方法等

授業評価アンケートは、結果を集計・分析し、評議会及び教授会での報告と併せてホームページで教員や学生に公開している。

（注）・「① a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

（３）自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

学校法人奈良学園は、高等教育機関の再編を進める上で、法人内外の委員で構成された高等教育検討委員会を設置し検討を重ねた結果、既存のビジネス学部及び情報学部の学生募集を停止し、人間教育学部及び保健医療学部を平成26(2014)年4月に設置することとした。さらに、大学名称を本法人名を冠する奈良学園大学に改称し、総合学園のスケールメリットを生かすこととした。

人間教育学部及び保健医療学部設置にあたっては、高等教育改革推進委員会を設置し、学長予定者及び学部長予定者が中心となって具体的な教育目標、教育内容、教育方法、教育環境について検討を重ねた。認可申請書を提出する際には、前述の委員会を（仮称）奈良学園大学設置準備委員会に改称し、より詳細な準備を進めた。

設置認可後は、着任予定者を参集し、学長から建学の精神及び教育理念を伝え、本学の目指す教育を明示した。

平成28年度についても、平成26、27年度同様に、学生確保においては、高校訪問やオープンキャンパスを適切に行い、近隣高校及び参加者に誠実な対応に努めた結果、定員を確保することができた。

設置申請した教育課程に基づき、1年次及び2年次生に教育を行い、シラバスに沿った講義を行うとともに、実習についても問題なく完了した。実習機関等における学生の状況も高評であり、今後も、教育目標の達成のために、継続的に点検を行いつつ、計画に従って教育を行っていく。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

・平成27年4月 公表済み

b 公表方法

・自己点検・評価報告書を刊行し、図書館及び事務室に配架
・大学ホームページ上に公開済み（平成27年4月）

③ 認証評価を受ける計画

平成22年度に「財団法人日本高等教育評価機構」により機関別認証評価を受審したが、大学全体の収容定員に対して在籍学生数が大幅に下回っていること、それに伴い学生生徒納付金比率が急激に低下しているとの指摘を受け、学生募集及び財務について基準を満たしているか否かの判定が「保留」となった。

このことから、平成25年に、2つの基準について再評価を申請し、平成26年度に「平成26年度大学機関別認証評価（再評価）」を受審した結果、平成27年3月10日付で「平成26年度奈良学園大学再評価報告書」「認定証」が届いた。判定は、「再評価の結果、奈良学園大学は、日本高等教育評価機構が定める大学評価基準を満たしていると認定する。」とされ、総評では「平成26(2014)年度に基準4及び基準8について、平成22(2010)年度の認証評価時に指摘した改善事項の内容を中心に再評価を行った結果、指摘事項については改善されたことが確認できた。今後も継続的に自己点検・評価を行い、質の保証と改善に努めることを期待する。」と、改善を評価された。

この認定期間は平成29年3月末までであり、次のサイクルの認定を得るため、自己点検評価委員会を継続開催し、点検作業を進めている。平成28年7月にエントリーした。平成29年6月に書類等を提出する予定である。

（注）・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

（４）情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書

a ホームページに公表の有無

（ 有 ・ 無 ）

b 公表時期（未公表の場合は予定時期）

（ 平成 29 年 7 月 1 日 ）

奈良学園大学FD委員会規程

制	定	平成18年	4月	1日
最近改正		平成26年	4月	1日

(設置)

第1条 本学にFD委員会（以下「委員会」という。）を置き、本学におけるFD（ファカルティ・ディベロップメント）推進のために必要な事項の審議及び学部間の連絡、調整等を行う。

(構成員)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 副学長
- (2) 学部選出教員 各2名
- (3) 事務局教務課長
- (4) その他学長が必要と認め委嘱した者

2 前項第2号及び第4号の委員の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

(委員長)

第3条 委員会に委員長を置く。なお、委員長は、委員の中から学長が指名する。

2 委員長は、委員会を招集し、議長となる。

(審議事項)

第4条 委員会は、次の事項を審議する。

- (1) 授業改善のための基本方針の策定に関する事項
- (2) 教育活動における教職員の交流と研修に関する事項
- (3) 教員の教授活動相互研鑽に関する事項
- (4) 学生による授業評価の実施に関する事項
- (5) 学生の勉学能力の育成に関する事項
- (6) その他委員会が必要と認めた事項

2 前項の審議事項は、企画運営会議に報告または発議し、必要に応じて大学評議会に報告または発議するものとする。

(小委員会の設置)

第5条 委員会は、必要に応じて、小委員会を設置することができる。

2 小委員会は、議論の内容を委員会に報告しなければならない。

(委員以外の出席)

第6条 委員長は、委員会が必要と認めたときは、委員以外の者に出席を求め、説明又は意見を聴くことができる。

(事務)

第7条 委員会の事務は、事務局教務課がこれを行う。

(改廃)

第8条 この規程の改廃は、大学評議会においてこれを行う。

附 則

この規程は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成21年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この規程は、平成22年4月1日から施行する。
- 2 第2条第2項の規定にかかわらず、平成22年4月1日を任期の始期とする第2条第1項第2号の委員のうち各学部1名の任期は1年とする。

附 則

この規程は、平成23年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この規程は、平成26年4月1日から施行する。
- 2 第2条第2項の規定にかかわらず、平成26年4月1日を任期の始期とする第2条第1項第2号の委員のうち各学部1名の任期は1年とする。